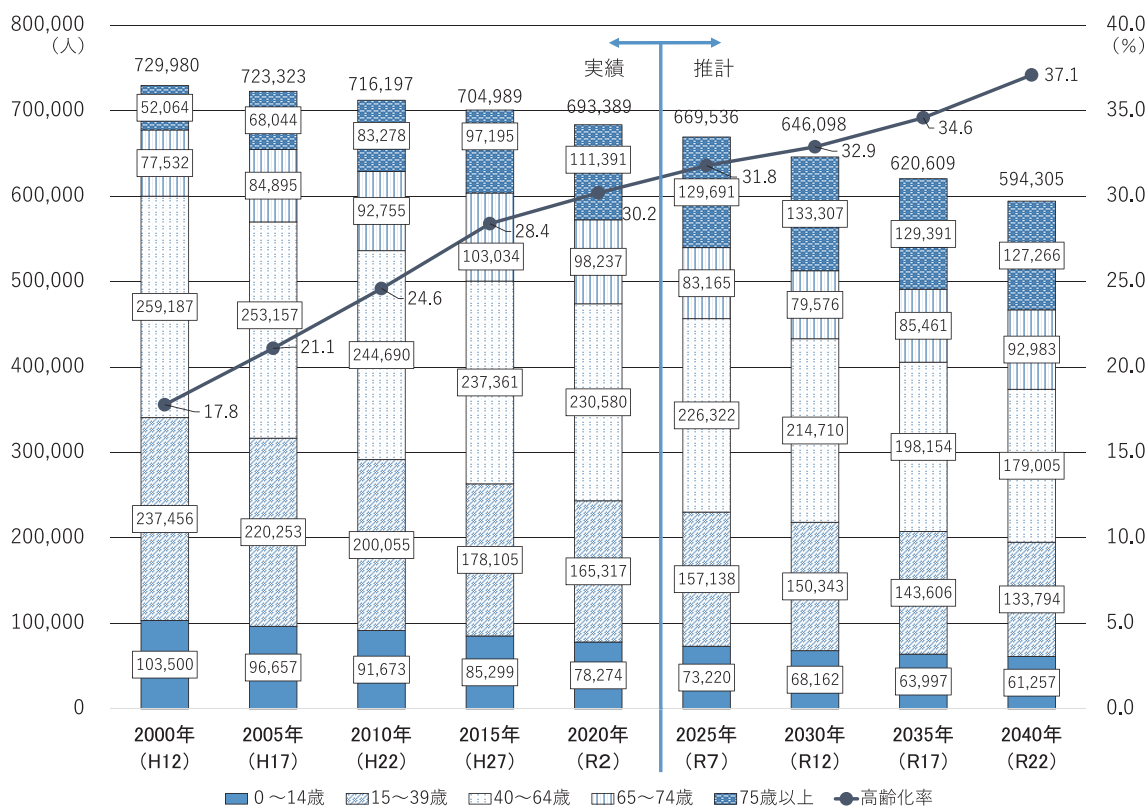


# 資料編

## Ⅰ 地域福祉を取り巻く現状 統計データ

### 【人口減少と少子高齢化】

グラフ①静岡市の人口の推移と将来推計

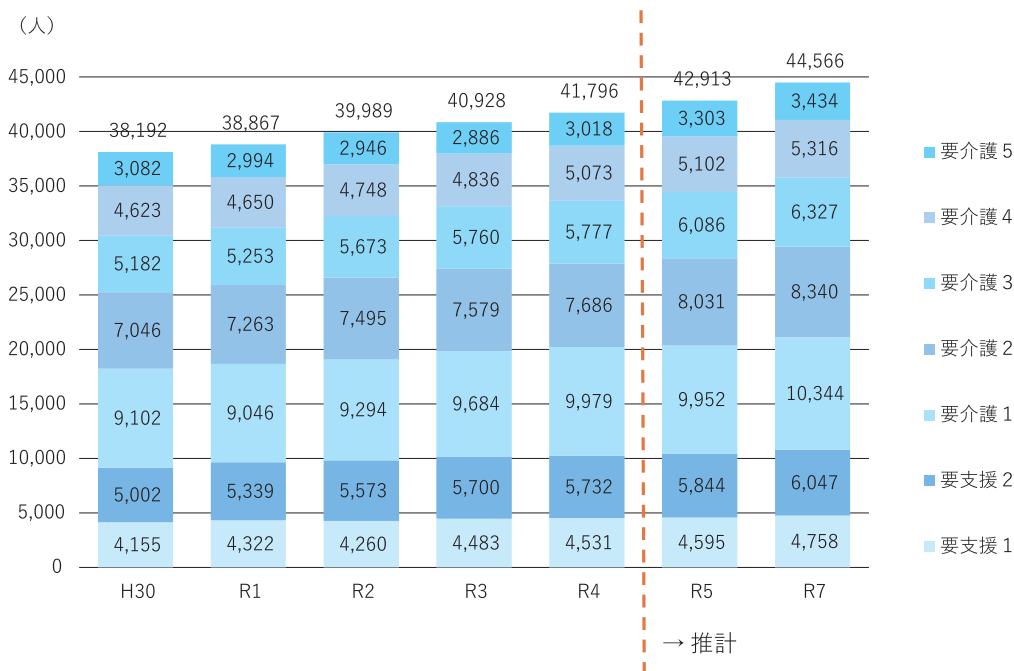


出典：令和2年までは総務省「国勢調査」、推計は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2018年3月推計）」

- 全国的に将来を担う世代の人口が減少していると言われる中、本市においても令和22年には人口が60万人を割ると見込まれています。高齢化率も、年々上昇しており、令和22年には37.1%まで増加していくと推計されています。
- また、75歳以上の後期高齢者が増加する一方で、生産年齢人口（15～64歳）が減少し、担い手不足が懸念されます。

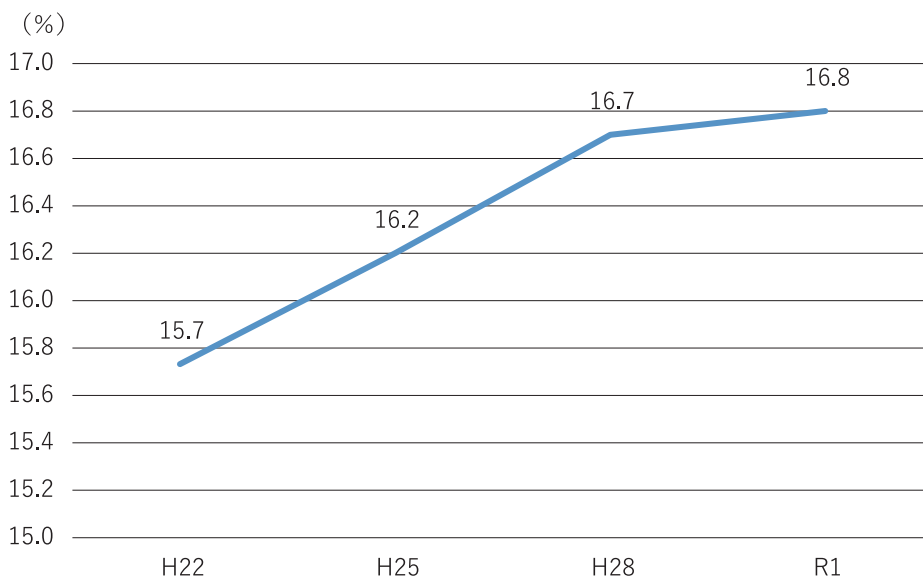
## 【高齢者に関する現状】

### グラフ②介護保険事業における要介護認定者数の推移



出典：静岡市調べ

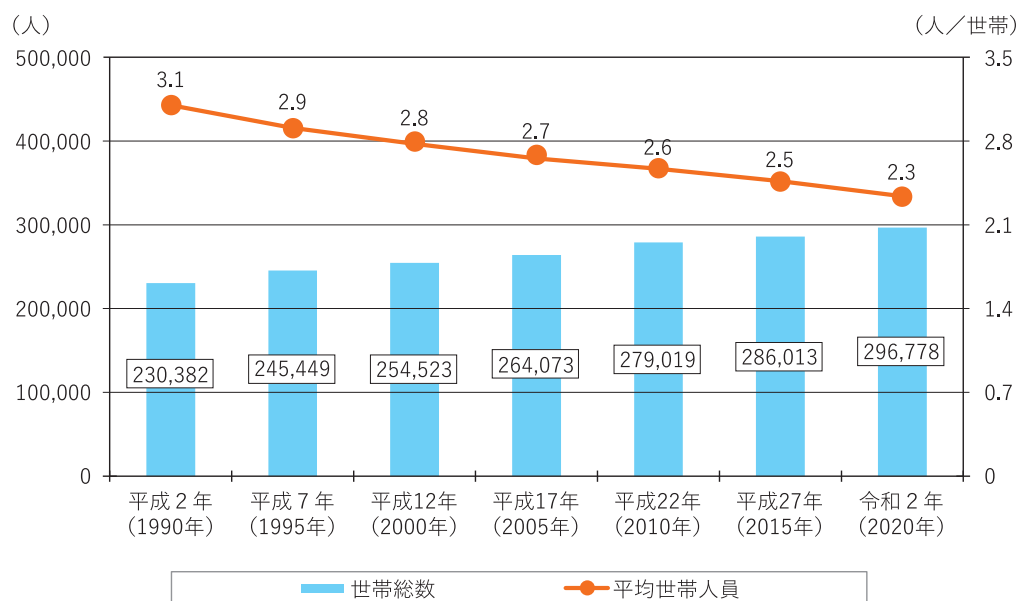
### グラフ③要介護認定率（年齢調整後）の推移



出典：静岡市調べ

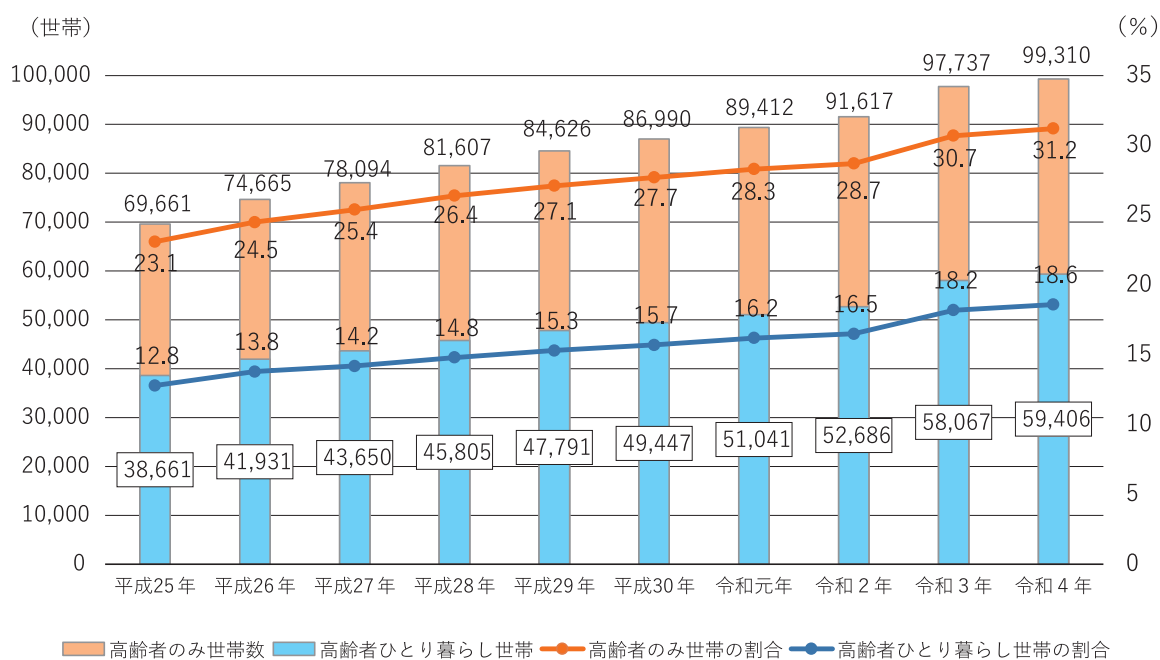
●介護保険の要介護認定者数は年々上昇しており、令和7年には44,000人以上になると推計されています。要介護認定率（年齢調整後）も年々上昇しています。

グラフ④世帯数と一世帯あたりの人数



出典：静岡市調べ

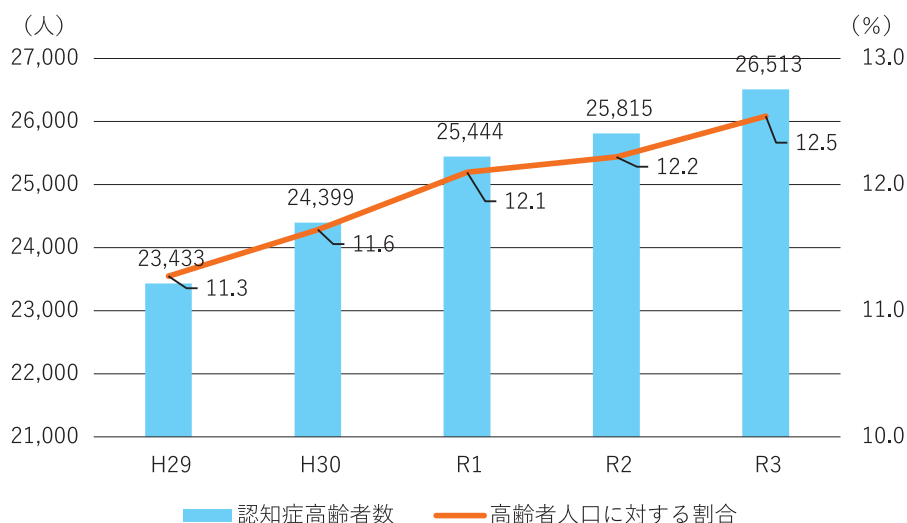
グラフ⑤高齢者のみ世帯・高齢者単身世帯数の推移



出典：静岡市調べ

●一世帯あたりの人数は平成2年から減少傾向にあります。また、高齢者のみの世帯や高齢者のひとり暮らし世帯が年々増加していることがわかります。

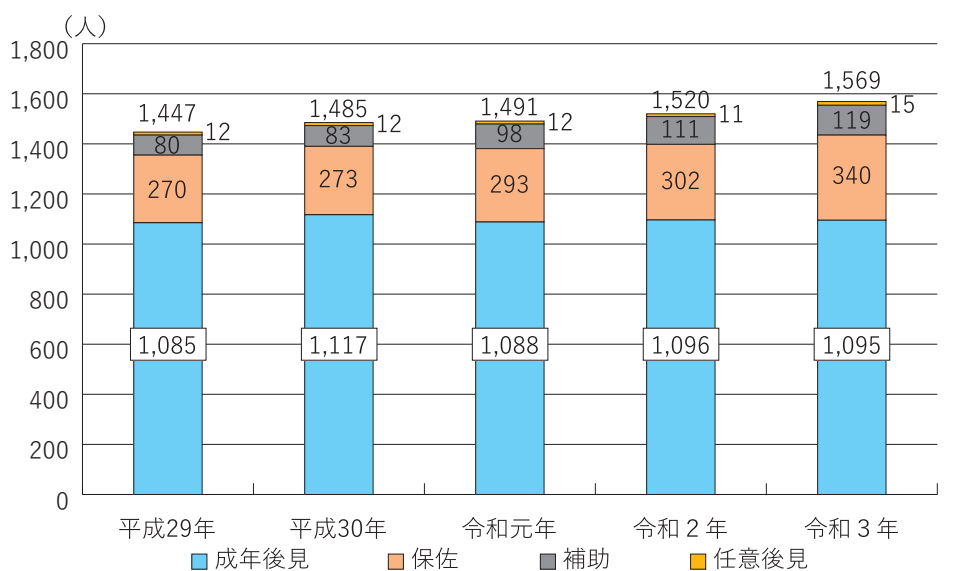
グラフ⑥認知症高齢者数の推移



出典：静岡市調べ

●認知症の高齢者数は平成29年から令和3年まで増加しており、高齢者人口に対する割合も平成29年の11.3%から令和3年で12.5%まで上昇しています。

グラフ⑦成年後見制度の利用者数

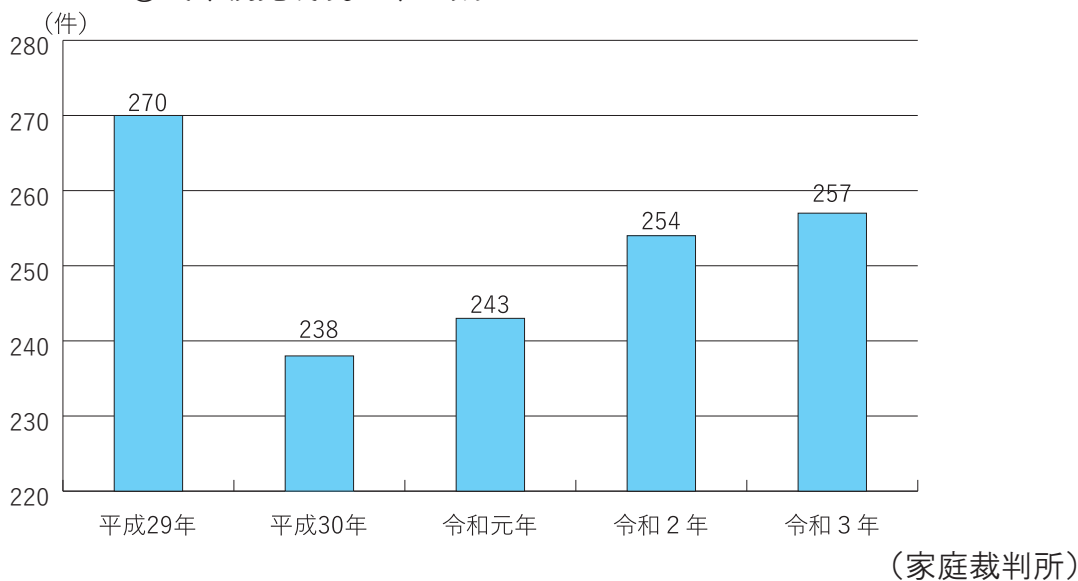


(家庭裁判所)

●成年後見制度の利用者数は微増傾向にあります。特に、保佐・補助類型についての増加率が伸びています。

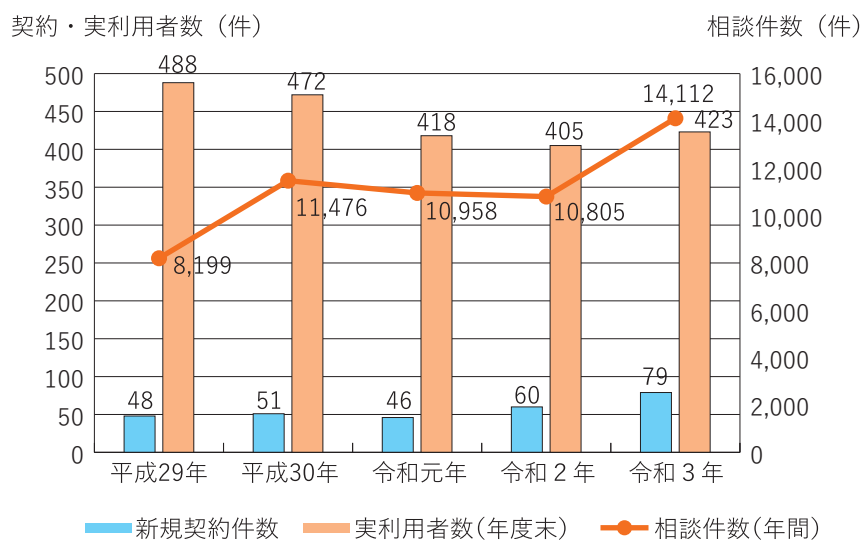
しかし、認知症高齢者数や療育手帳・精神保健福祉手帳の保持者数に対しては、依然としてかなり少ない利用者数となっています。

グラフ⑧成年後見制度の申立数



●成年後見制度の申立数は、平成30年以降は増加傾向にあります。

グラフ⑨日常生活自立支援事業に関する相談・利用状況



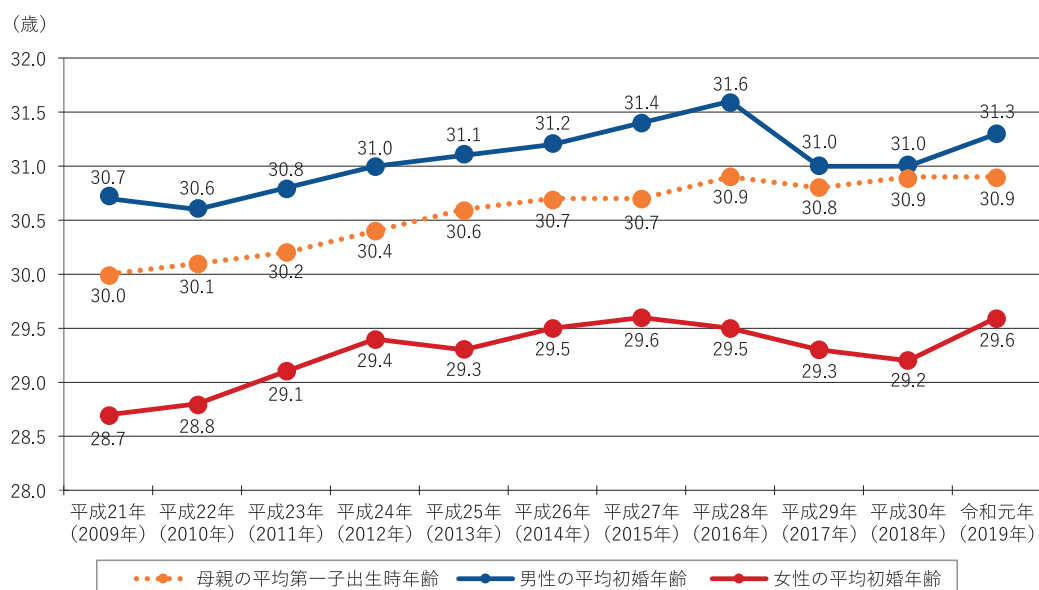
(静岡市社会福祉協議会)

●新規契約件数は、概ね増加傾向にあります。

また、直近2年間における相談件数は、約1.3倍となっており、利用者、利用希望者のニーズが高まっていることがうかがえます。

## 【子どもに関する現状】

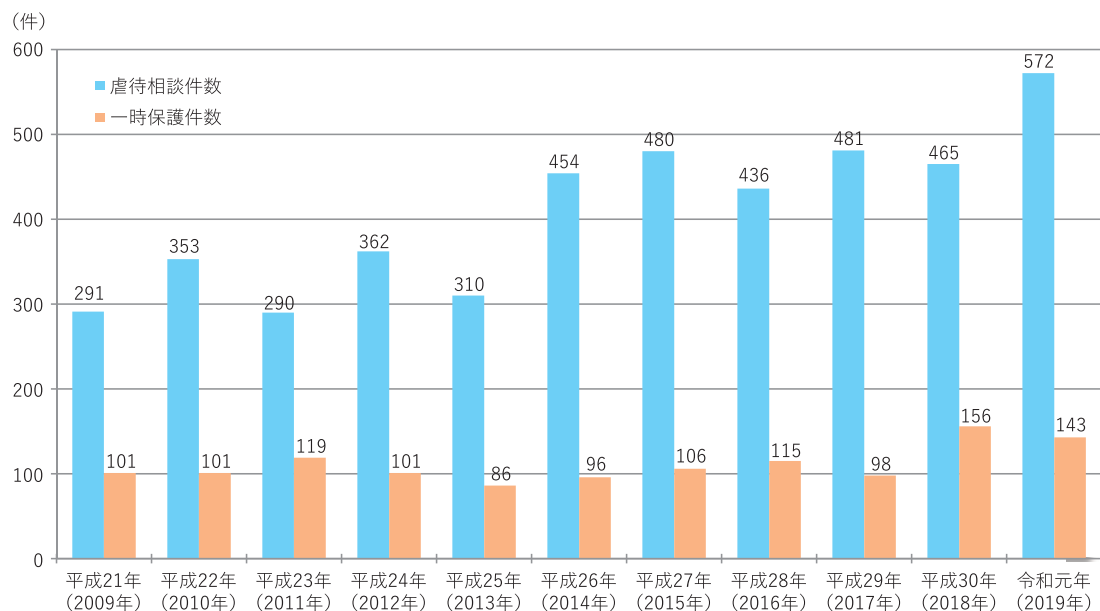
### グラフ⑩平均初婚年齢・母親の第一子出生時平均年齢



出典：静岡市調べ

●本市の平均初婚年齢、母親の第一子出生時平均年齢は高まっており、晩婚化、晩産化の傾向がうかがえます。それにより、子育てと親の介護を同時期に行うことになる「ダブルケア」などの問題が起こりやすくなります。

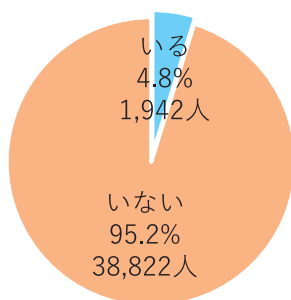
### グラフ⑪児童虐待に係る相談及び一時保護件数



出典：静岡市調べ

●児童虐待に係る相談件数は、平成21年から増加傾向にあり、特に令和元年に大幅に増加しました。

## グラフ②ヤングケアラーの実態



ケアしている人の有無

### 国、県との比較

	静岡県調査		国調査
	静岡市	静岡県	国
小学生	5.8%	5.0%	6.5%
中学生	4.9%	5.0%	5.7%
高校生	4.0%	3.9%	4.1%
全体	4.8%	4.6%	4.8%

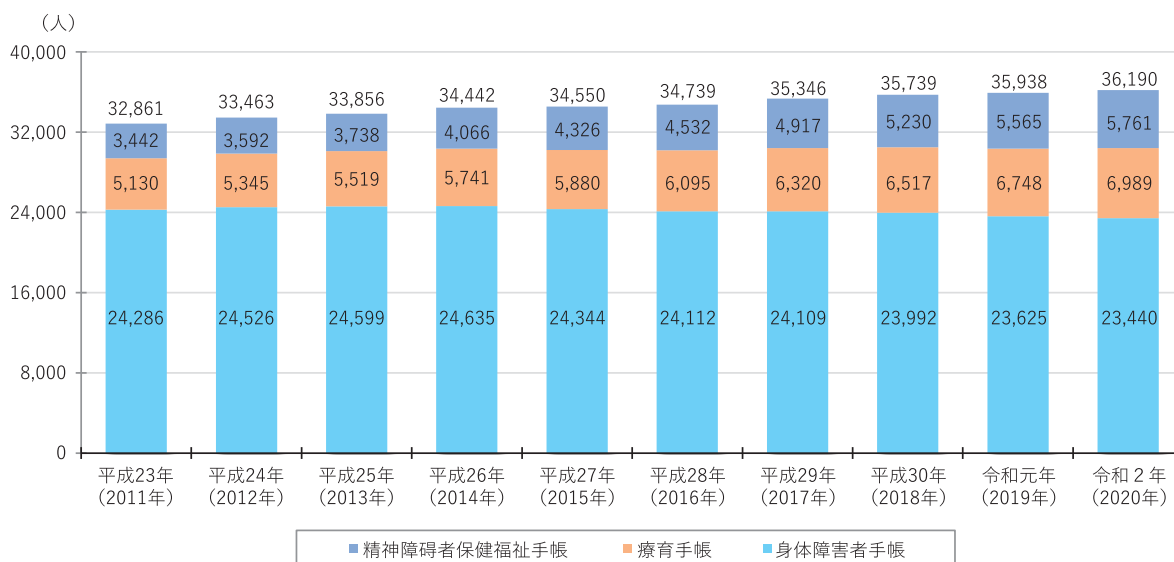
※県調査 令和3年11月から令和4年2月（小学校5・6年生、中学生、高校生）

※国調査 小6：2022.1月 中2・高2：2021.4月

●静岡市のヤングケアラーの実態として、家族の「ケアをしている」割合は、全体のうち4.8%となっています。なお、学校ごとに国や本県と比較した結果は小学生が5.8%と、静岡県と比較するとやや高い割合となっています。

## 【支援を必要とする人の現状】

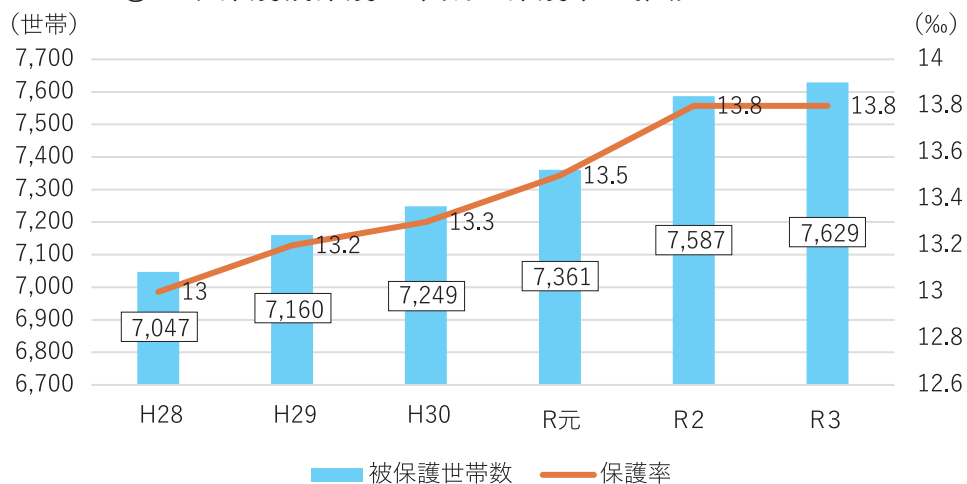
### グラフ③障害者手帳所持者数の推移



出典：静岡市調べ

●障害者手帳所持者数は年々増加しています。また、身体障害者手帳所持者は減少している一方で、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳所持者は増加傾向にあります。

グラフ④生活保護被保護世帯数と保護率の推移

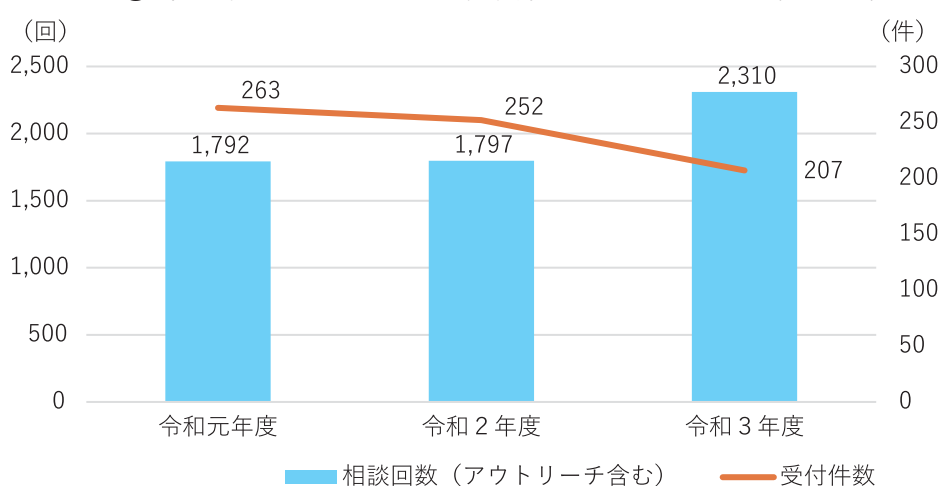


※保護率：推計人口に対する被保護実人員。表記の単位は%（パーミル）で人口1000人あたりの人数。

出典：静岡市の福祉

●生活保護の被保護世帯数は、平成27年から増加しており、保護率も年々上昇しています。長引く経済不況の影響を受けていることが考えられます。

グラフ⑤静岡市ひきこもり地域支援センターの相談件数の推移



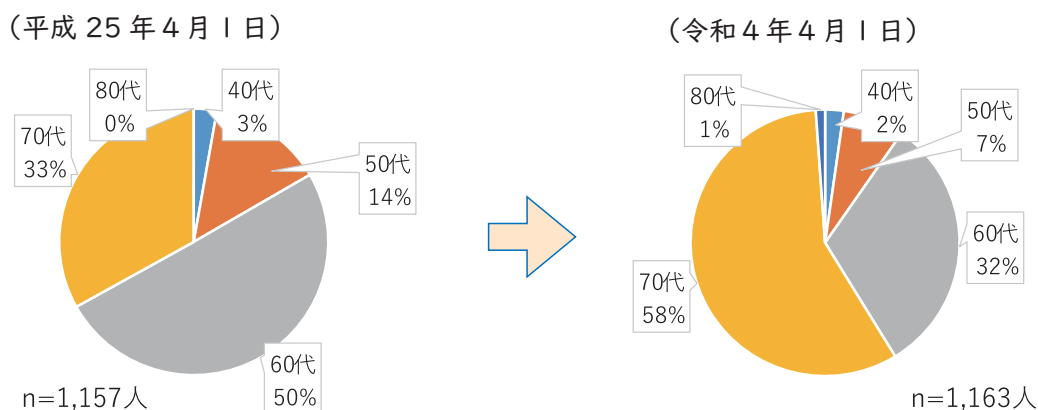
出典：静岡市調べ

●アウトリーチを含むひきこもりの合計相談回数は、この3年で増加していることがわかります。一方、相談受付件数はやや減少しており、相談者の数はやや減ってきていることがわかります。



## 【担い手と地域活動の変化】

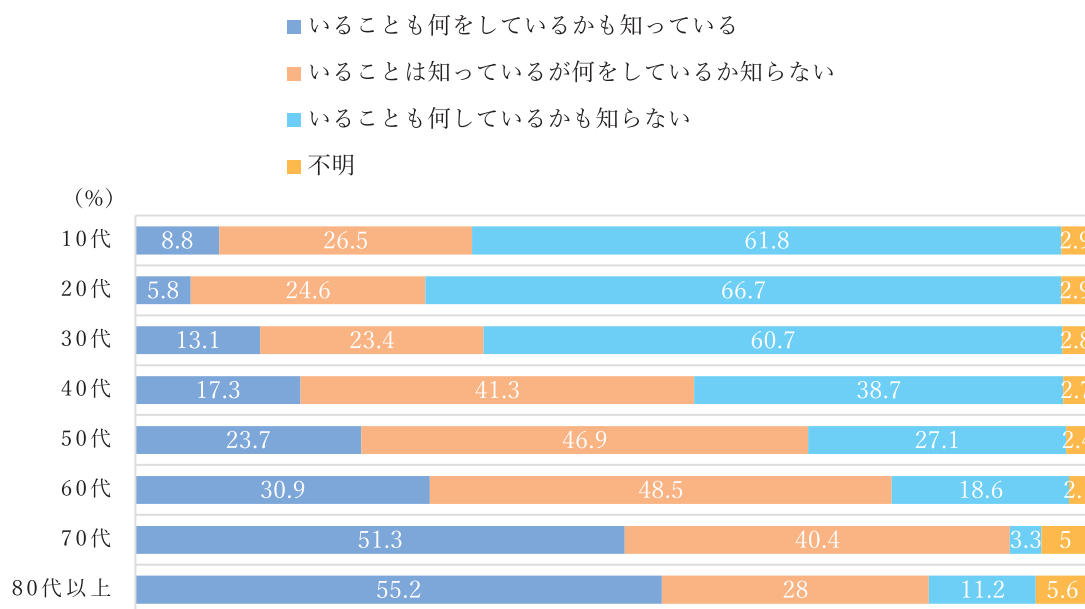
グラフ⑯ 民生委員・児童委員における70歳以上の割合推移



出典：静岡市調べ

● 民生委員・児童委員の年齢内訳を見ると、平成25年から令和4年で60代の割合が減り70代の割合が増えており、担い手が高齢化していることがわかります。

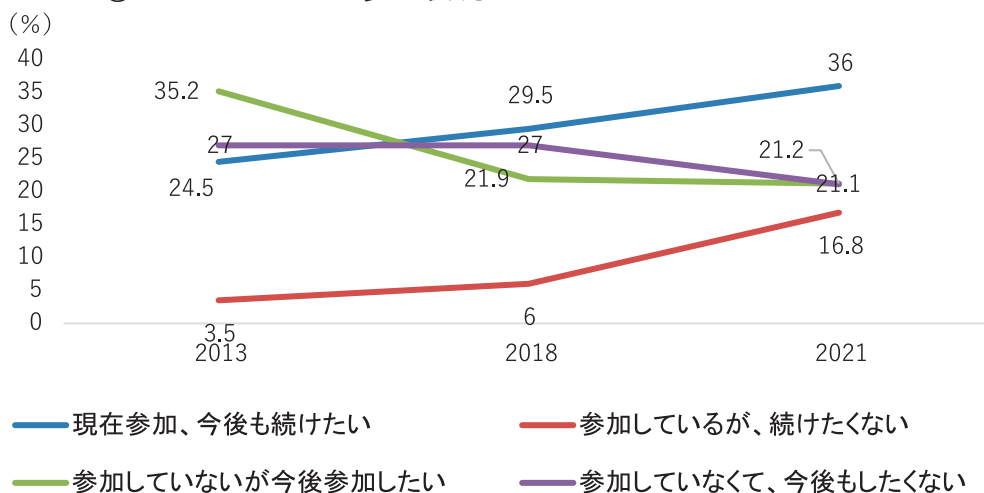
グラフ⑰ 民生委員・児童委員の認知度（年齢別）



出典：R3 地域福祉に関する市民アンケート

● 70、80代以上は民生委員・児童委員について「知っている（何をしているかも知っている）」人の割合が5割を超えています。高齢者にとっては馴染みがありますが、若い世代には制度としてあまり浸透していないことがわかります。

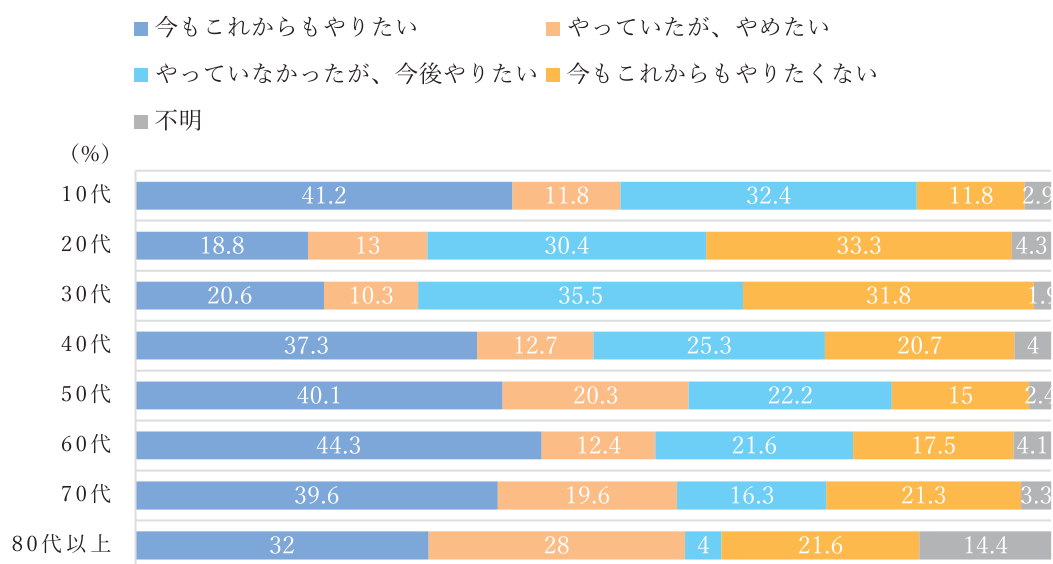
グラフ⑱ ボランティアの参加状況



出典：R3 地域福祉に関する市民アンケート

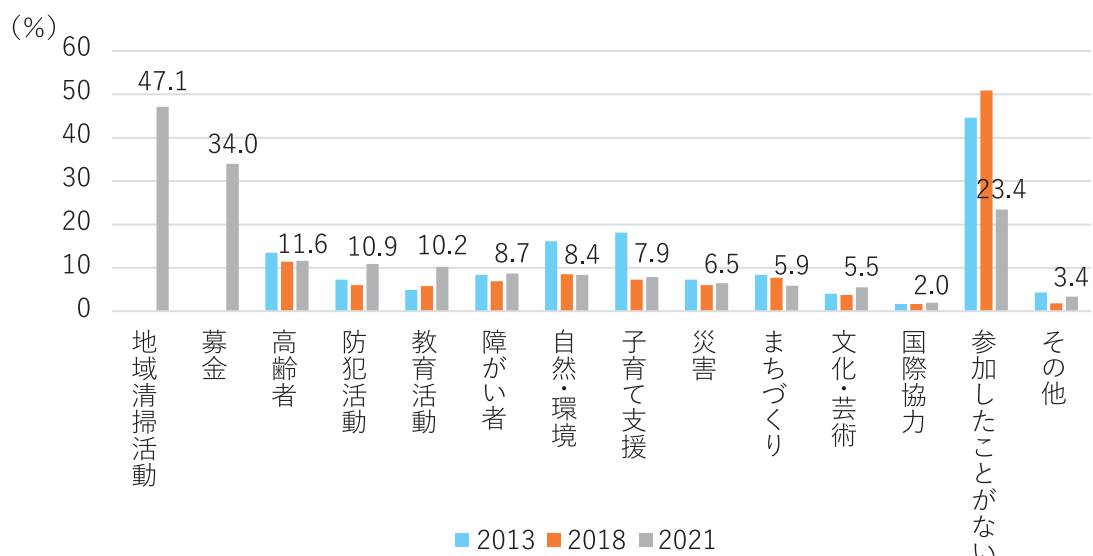
● ボランティアの参加について、現在参加していて今後も続けたいと思う人が増えている一方で、現在参加しているが、今後は続けたくないと思う人の割合も同様に上昇しています。

グラフ⑲ ボランティア活動の参加状況（世代別）



出典：R3 地域福祉に関する市民アンケート

グラフ⑳ ボランティア活動の参加分野

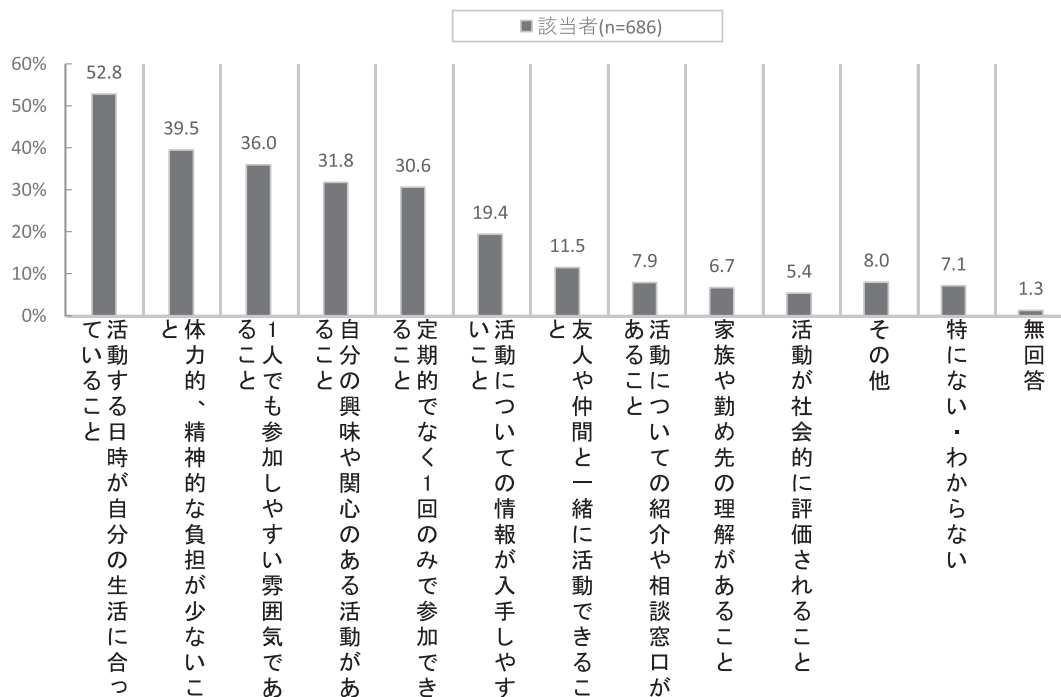


出典：R3 地域福祉に関する市民アンケート

※2013、2018年は「地域清掃活動」「募金」は調査項目に含んでいません。

●ボランティア活動の参加経験分野については、令和3(2021)年の地域清掃活動と募金を除いては、各分野も大きな差はなく分散しています。令和3(2021)年調査で追加した「地域清掃活動」は、町内会に加入している人にとって、参加しやすい地域活動として本市で浸透している地域活動の一つと言えます。また、「募金」は活動時間や活動内容に関わらず自由に個人の金額で選択することができるため、福祉への貢献という意味で、気軽に誰でもできる活動とも言えます。

グラフ②①のようにしたらボランティア活動に参加しやすくなるか。

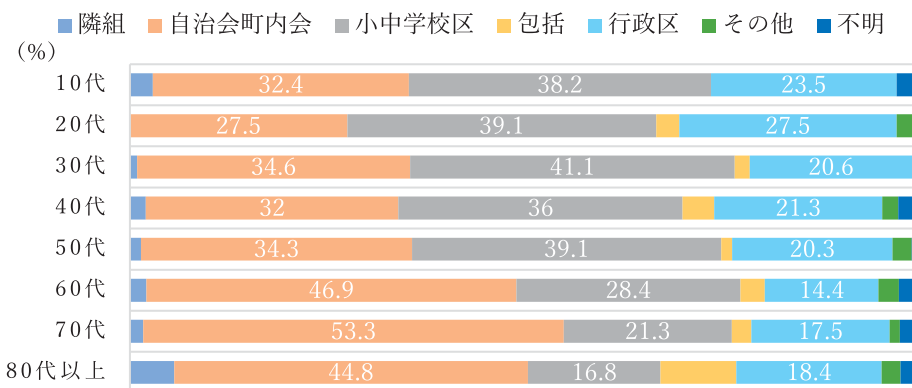


出典：R3地域福祉に関する市民アンケート

●ボランティア活動に参加したくなる条件としては、活動する日時が生活に合っていることを望む人の割合が多いことがわかります。仕事や家庭で多忙な世代であっても活動をできる条件が合えば、ボランティア活動や地域活動に参加可能であるとも言えます。

## 【地域の課題や困りごとについて】

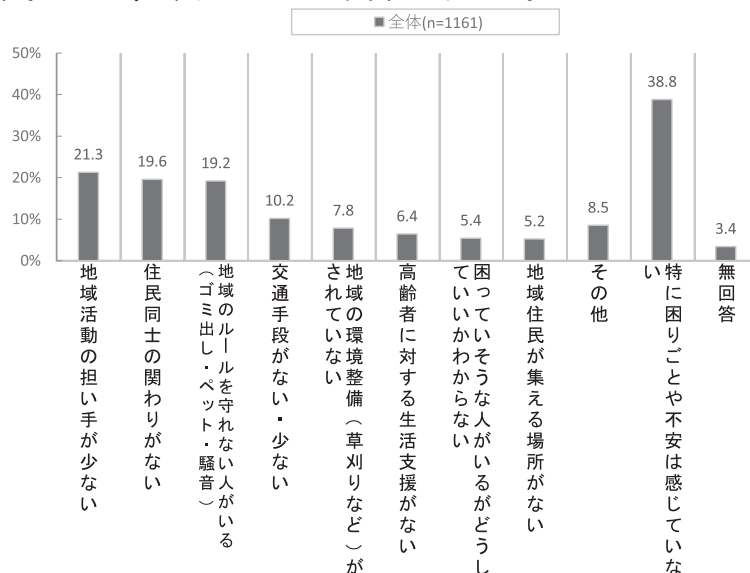
グラフ②「地域」とはどの範囲だと思うか。



出典：R3地域福祉に関する市民アンケート

●「地域」の範囲をどこまでと捉えるかは、年代によって差があります。60代以上は「自治会・町内会」を地域と考える人の割合が高く、20代から50代は「小・中学校区」を地域と考える人の割合が高いです。町内会の最も小さい単位である「隣組」の割合はどの年代も低いことがわかります。

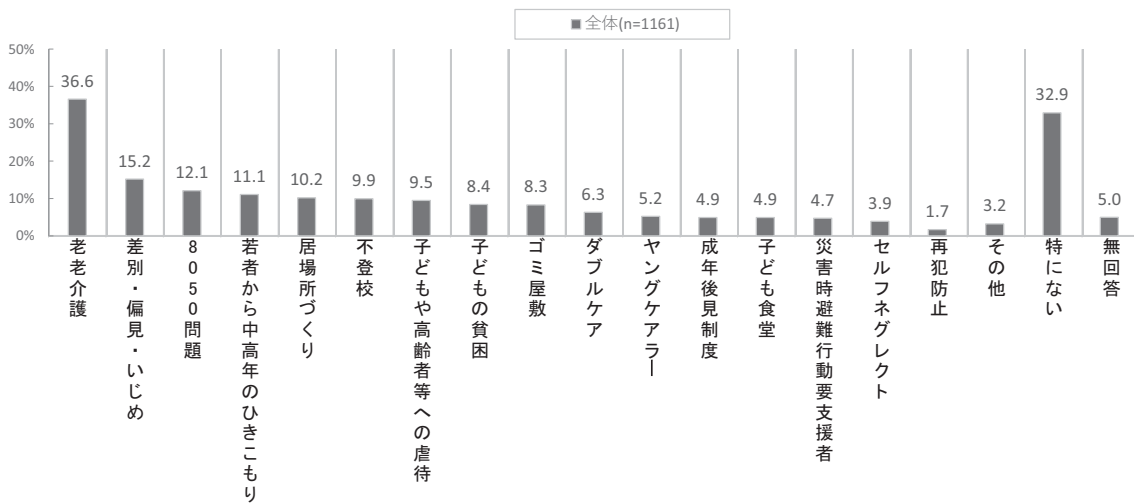
グラフ③自分の地域で困りごとや不安があるか。



出典：R3地域福祉に関する市民アンケート

●地域内の困りごとや不安については、担い手が少ないことや住民同士の関わりがないこと、地域のルールが守られていないなどが多い中、困りごとや不安は感じていない人の割合も高いです。単純に、地域の困りごとがないのか、困りごとだと感じていなかったり、関心がないという可能性もあります。

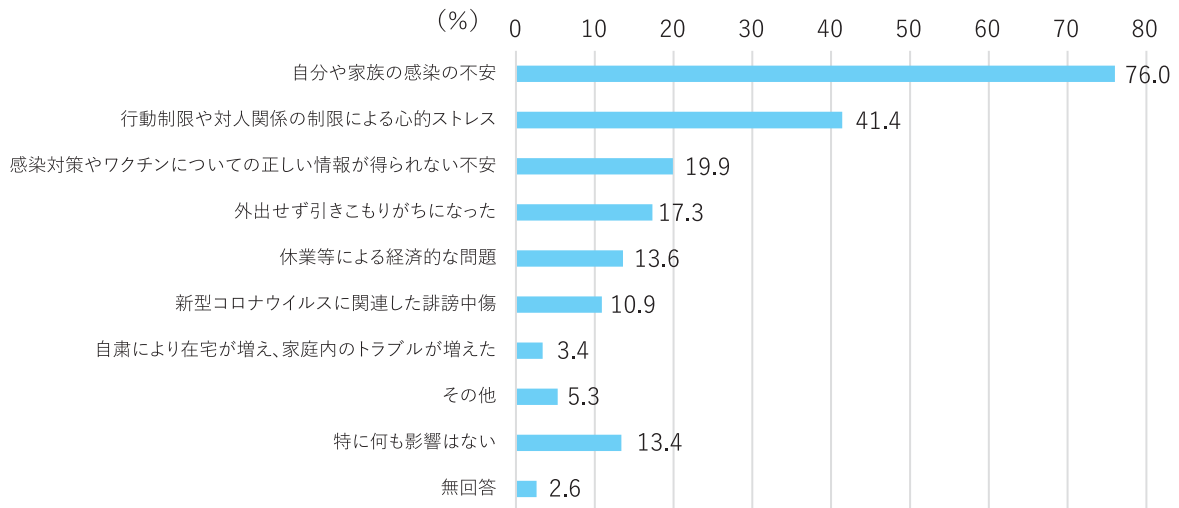
グラフ②④最近の地域福祉の課題の中で、身の回りで話題になっていること。



出典：R3地域福祉に関する市民アンケート

●老老介護以外の課題は、大きな差はなく分散しています。また、特にないという人の割合も高く、最近、地域福祉で一般的によく聞かれるようになった課題等については、特に身近に感じていない人が多いこともわかります。

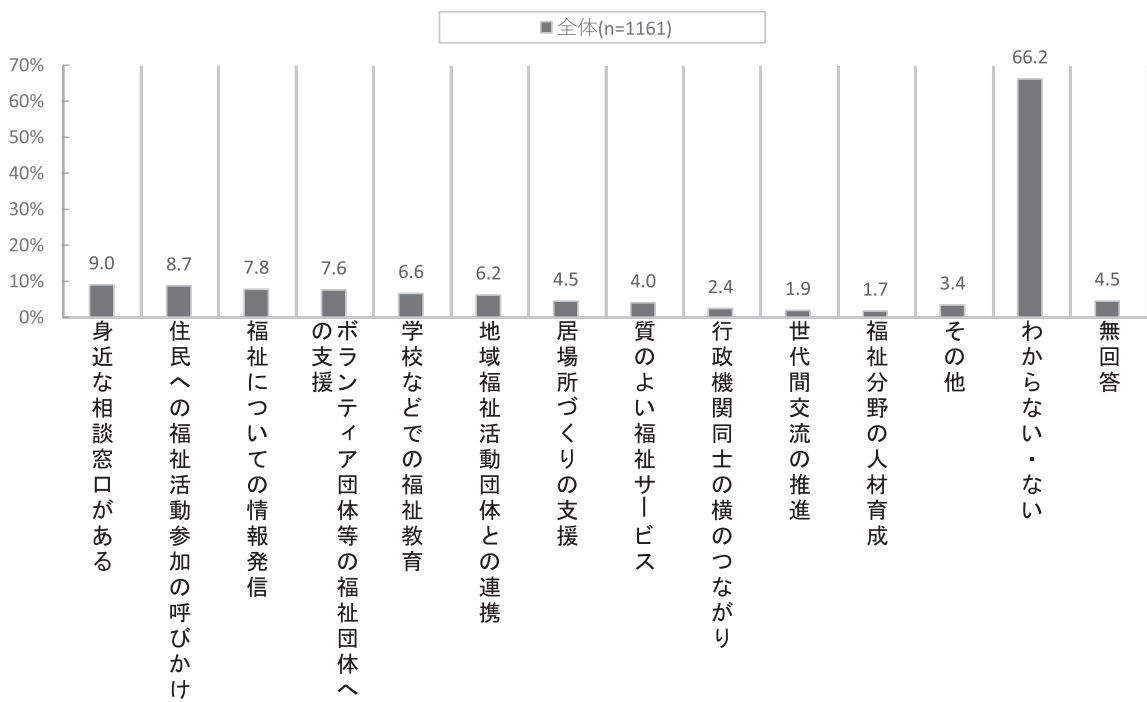
### グラフ②⑤新型コロナウイルス感染症による影響



出典：R3地域福祉に関する市民アンケート

●新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたことの調査では、自分や家族の感染の不安がもっとも多い割合で、それに次いで行動制限や対人関係の制限による心的ストレスを感じている人の割合が多いことがわかります。

グラフ⑳市の福祉施策についての評価



出典：R3 地域福祉に関する市民アンケート

●市の実施する施策について、いずれも割合は低く、「わからない・ない」の割合が非常に高い結果となりました。本市の地域福祉の取組が知られていない状況がわかります。福祉施策そのものを充実させるとともに、実施している施策の効果的な広報・周知が必要であることが言えます。

## 2 会議の開催状況

静岡市健康福祉審議会	地域福祉専門分科会
令和3年度 第1回 令和3年6月	令和3年度 第1回 令和3年6月 ・第3次計画後期実施計画の評価 ・第4次計画の策定について
令和3年度 第2回 令和4年3月	令和3年度 第2回 令和4年2月 ・市民アンケートの結果について ・第4次計画の骨子案について
令和4年度 第1回 令和4年5月	令和4年度 第1回 令和4年6月 ・第3次計画後期実施計画の評価 ・第4次計画の骨子案について
令和4年度 第2回 令和4年8月	令和4年度 第2回 令和4年9月 ・第4次計画の素案について
令和4年度 第3回 令和4年12月	令和4年度 第3回 令和5年2月 ・パブリックコメント意見 ・計画最終版について
令和4年度 第4回 令和5年2月	



市社協 活動計画策定委員会	市社協 活動計画策定作業部会	
	個別支援部会	地域福祉部会
令和3年度第1回 令和3年6月 ・第4次計画の基本理念について ・第4次計画策定の具体的な方法について	令和3年度第1回 令和3年6月 ・団体事業所アンケート実施内容について	令和3年度第1回 令和3年6月 ・地域生活課題の把握方法について
令和3年度第2回 令和4年1月 ・地区懇談会およびアンケート実施について ・第4次計画の骨子案について ・第4次計画の市版と区版掲載内容について	令和3年度第2回 令和3年7月 ・団体事業所アンケート調査の素案について	令和3年度第2回 令和3年12月 ・地区懇談会の報告 ・地区懇談会ニーズの整理について ・第4次計画の柱立てについて
令和4年度第1回 令和4年6月 ・第4次計画の骨子案について ・第4次計画市版と区版の掲載内容について ・ワークシートについて	令和3年度第3回 令和3年12月 ・団体事業所アンケート調査の報告およびニーズの整理について	—
令和4年度第2回 令和4年12月 ・第4次計画各区基本目標に基づいた取組内容 ・ワークシートについて	令和3年度第4回 令和4年1月 ・団体事業所アンケート調査結果およびニーズの整理について ・第4次計画の柱立てについて	—
令和4年度第3回 令和5年2月 ・計画最終版について ・評価方法について	令和4年度第1回 令和4年5月 ・第4次計画の骨子案について ・第4次計画市版と区版の掲載内容について ・ワークシートについて	
	令和4年度第2回 令和4年11月 ・第4次計画各区基本目標に基づいた取組み内容	

### 3 地域福祉に関する市民アンケート結果

第4次計画を策定するにあたり、アンケートにより市民に意見を伺い、地域福祉の現状把握を行いました。

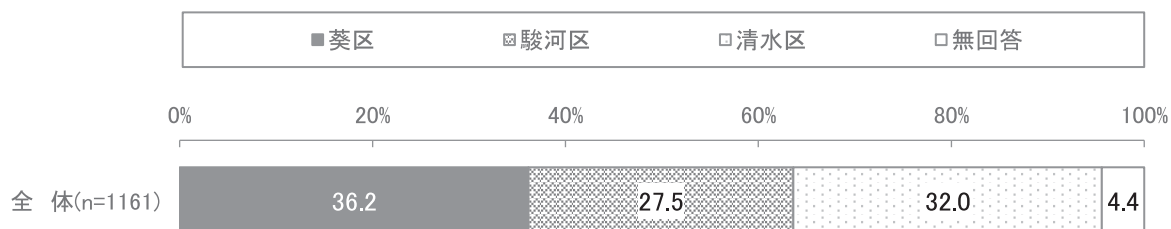
#### (1) アンケートの概要

- ①目的 静岡市の地域福祉の現状や課題を把握し、計画策定に活かすため。
- ②対象 静岡市在住の16歳以上の3,000人 無作為抽出
- ③調査期間 令和3年10月4日から令和3年10月25日まで
- ④調査方法 郵送による配布・回収
- ⑤回収状況 有効回収数 1,161通 有効回収率 38.7%

#### (2) アンケート結果

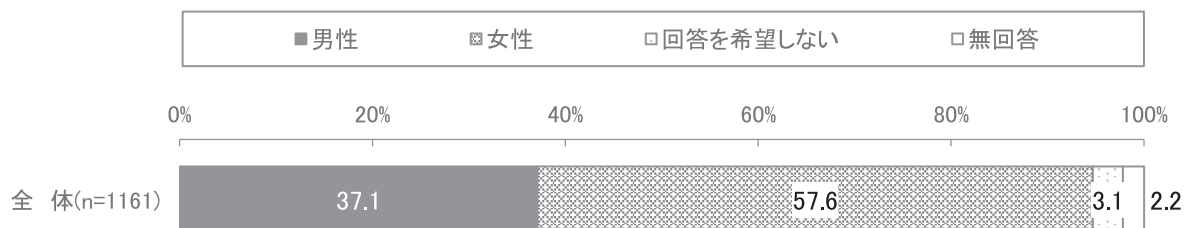
##### 【居住区】

「葵区」の割合が36.2%と最も高く、次いで「清水区」32.0%、「駿河区」27.5%となっている。



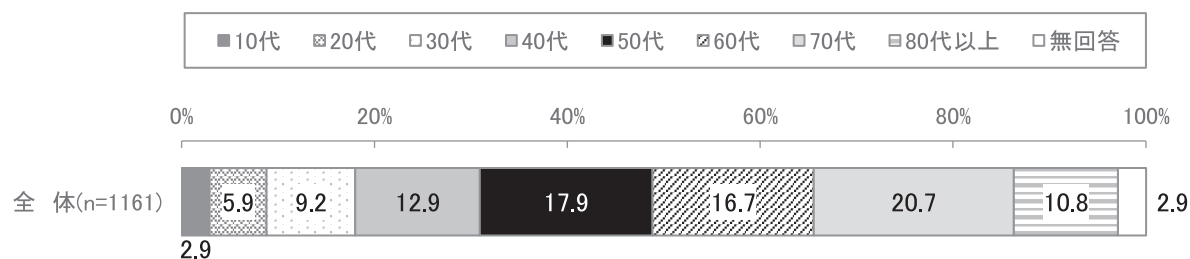
##### 【性別】

「男性」の割合が37.1%、「女性」の割合が57.6%となっている。



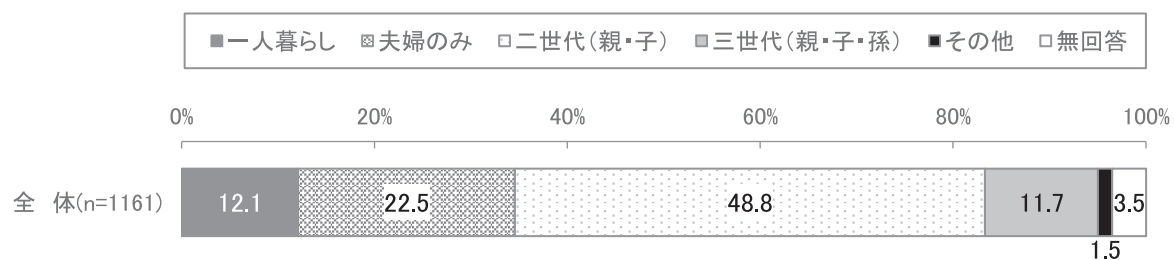
### 【年齢】

「70代」の割合が20.7%と最も高く、次いで「50代」17.9%、「60代」16.7%となっている。



### 【世帯構成】

「二世帯」の割合が48.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ」22.5%、「一人暮らし」12.1%となっている。

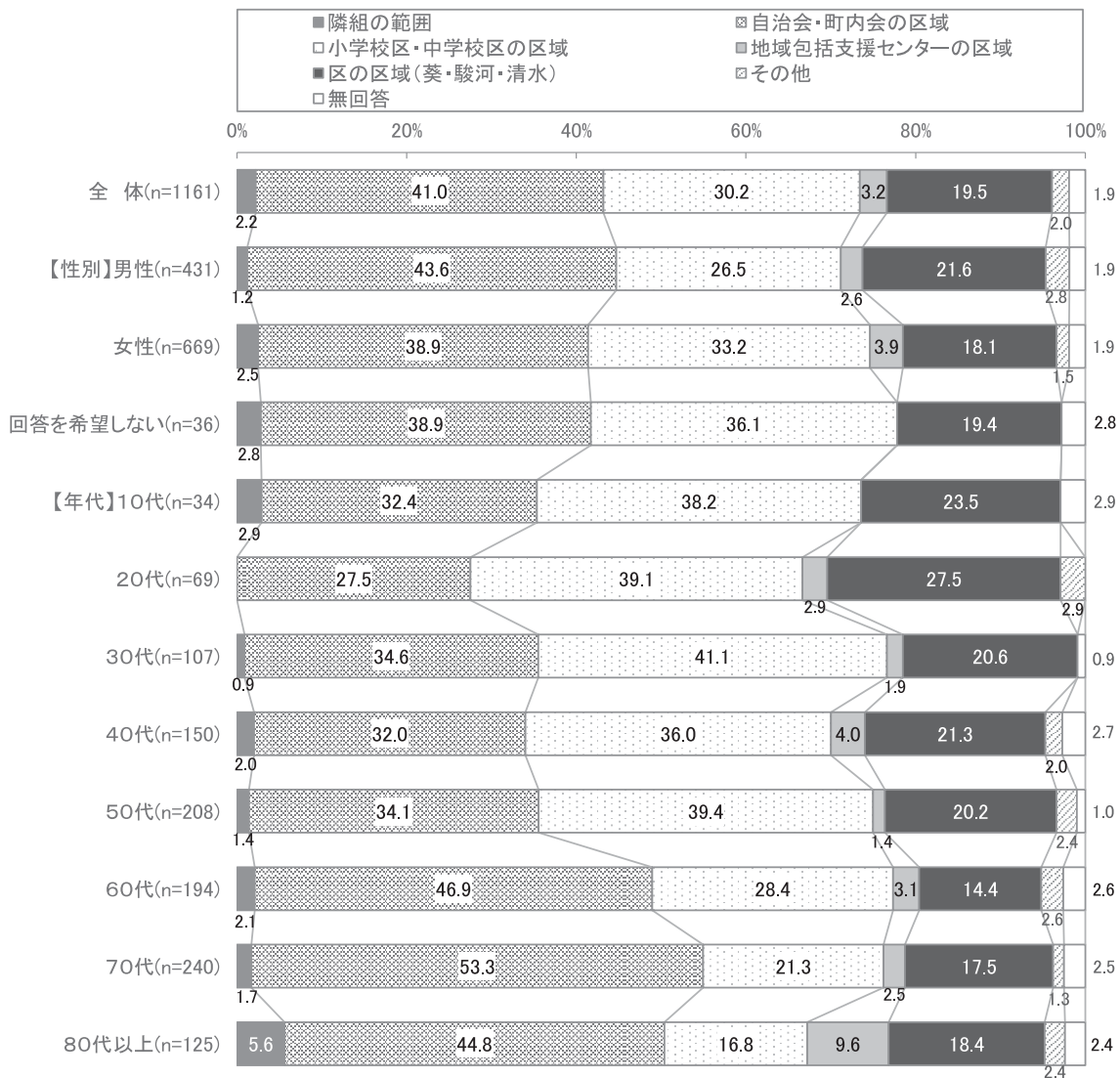


問1 あなたの考える「地域」とはどのような範囲ですか。  
あてはまるものを1つだけ選んでください。

全体では、「自治会・町内会の区域」と考える割合が41.0%で最も高く、次いで「小学校区・中学校区の区域」が30.2%、「区の区域（葵・駿河・清水）」が19.5%の順となっている。

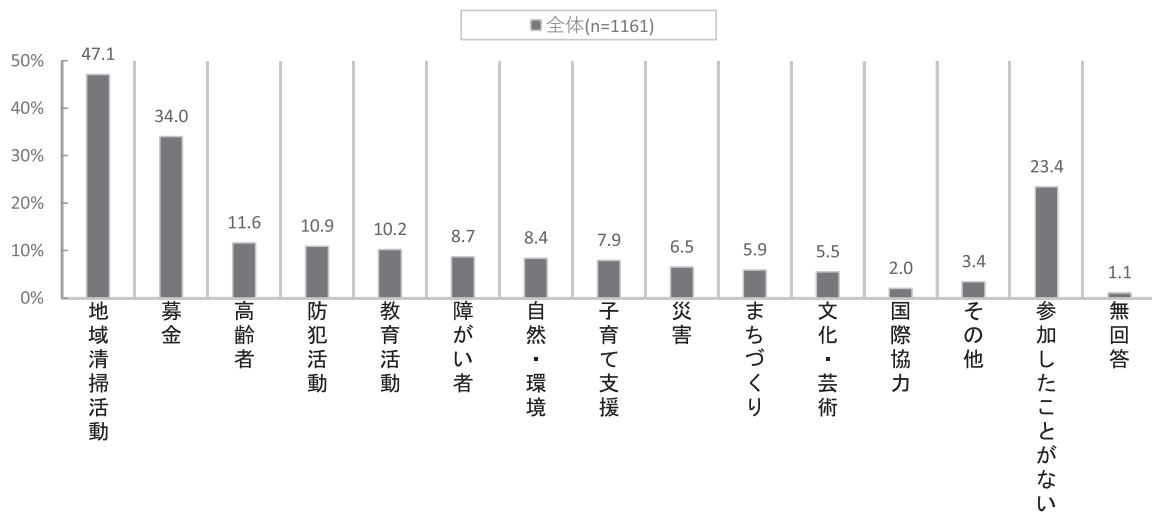
性別で見ると、女性において「小学校区・中学校区の区域」が男性と比べてやや高めとなっているが、全体的な傾向としては男女間で大きな差は見られない。

年代別で見ると、50代以下で「小学校区・中学校区の区域」と考える割合が最も高い一方で、60代以上においては「自治会・町内会の区域」が最も高い割合を占めている。



問2 あなたはこれまでにどのようなボランティア活動や社会貢献活動に参加したことがありますか。活動した分野であればまるものをすべて選んでください。

全体では、「地域清掃活動」が47.1%で最も高く、次いで「募金」が34.0%、「参加したことがない」が23.4%の順となっている。

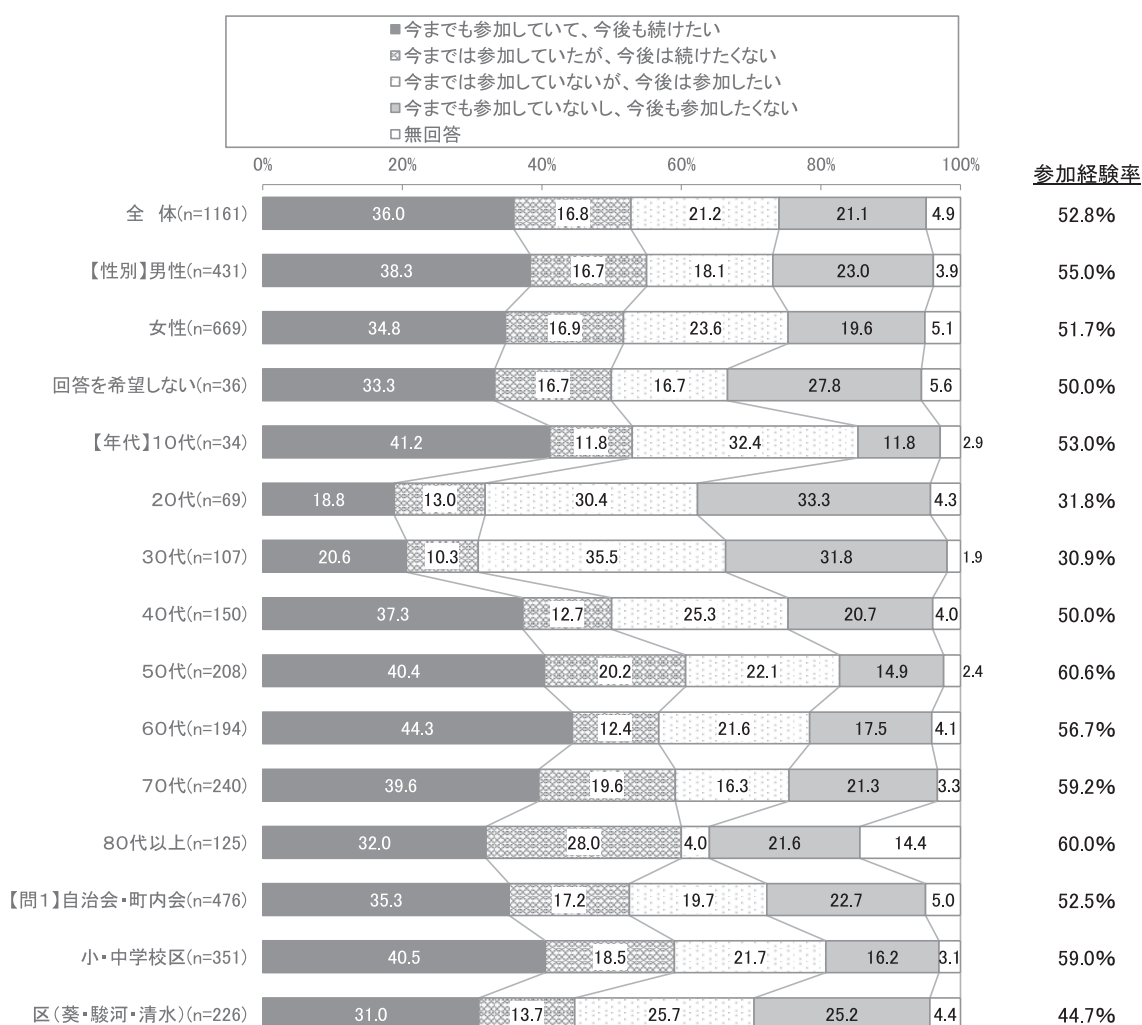


問3 現在、ボランティア活動や地域での活動（自治会・町内会などの活動も含む）に参加していますか。また、今後の参加についてはどのようにお考えですか。

全体では、「今までも参加していて、今後も続けたい」が36.0%、「今までは参加していたが、今後は続けたくない」が16.8%で合わせて52.8%が活動への参加を経験している。また、「今までは参加していないが、今後は参加したい」が21.2%、「今までも参加していないし、今後も参加したくない」が21.1%となっている。

性別でみて、男女間で大きな差は見られない。

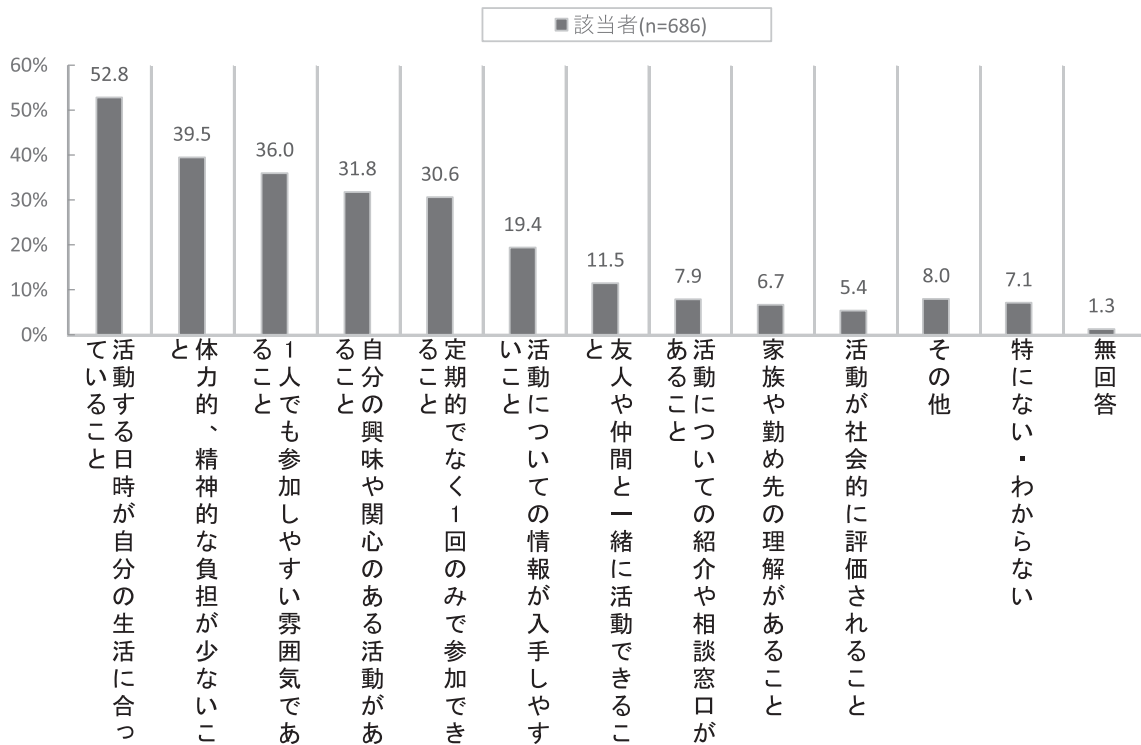
年代別でみると、参加経験率については40代以上で5割以上と高くなっている。20代～30代では参加経験率は3割程度にとどまっているが、「今までは参加していないが、今後は参加したい」が3割と他の年代と比べて高くなっている。



※問3で「2.今までは参加していたが、今後は続けたくない」、「3.今までは参加していないが、今後は参加したい」または「4.今までも参加していないし、今後も参加したくない」と答えた方にお聞きします。

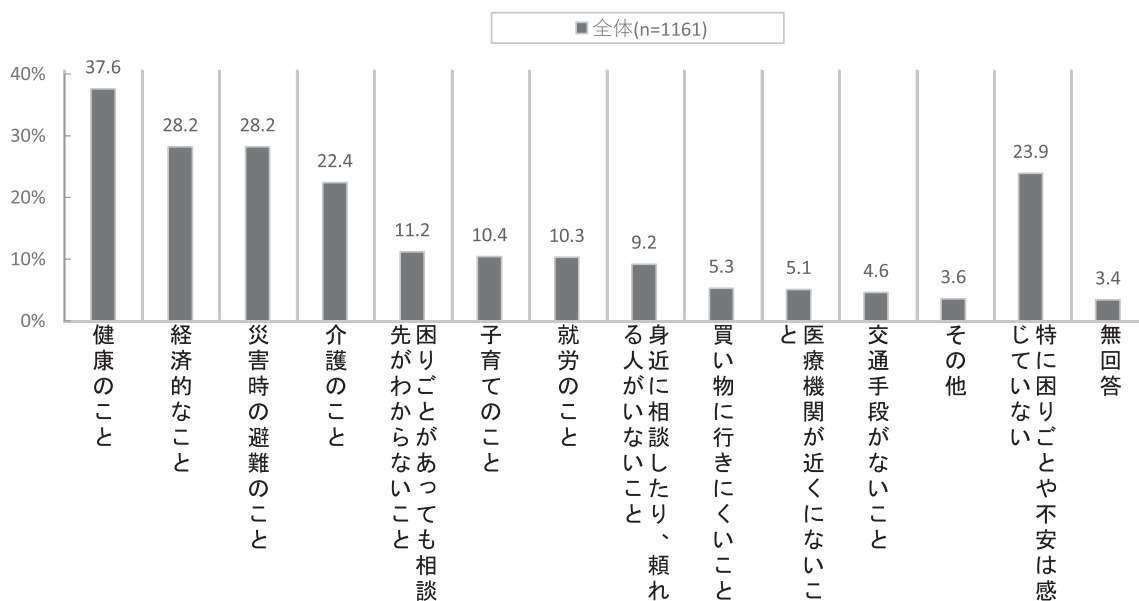
問3-1 どのようにしたら、ボランティア活動や地域での活動に参加しやすくなりますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

全体では、「活動する日時が自分の生活に合っていること」が52.8%で最も高く、次いで「体力的、精神的な負担が少ないこと」が39.5%、「1人でも参加しやすい雰囲気であること」36.0%、「自分の興味や関心のある活動があること」31.8%、「定期的でなく1回のみで参加できること」30.6%の順となっている。



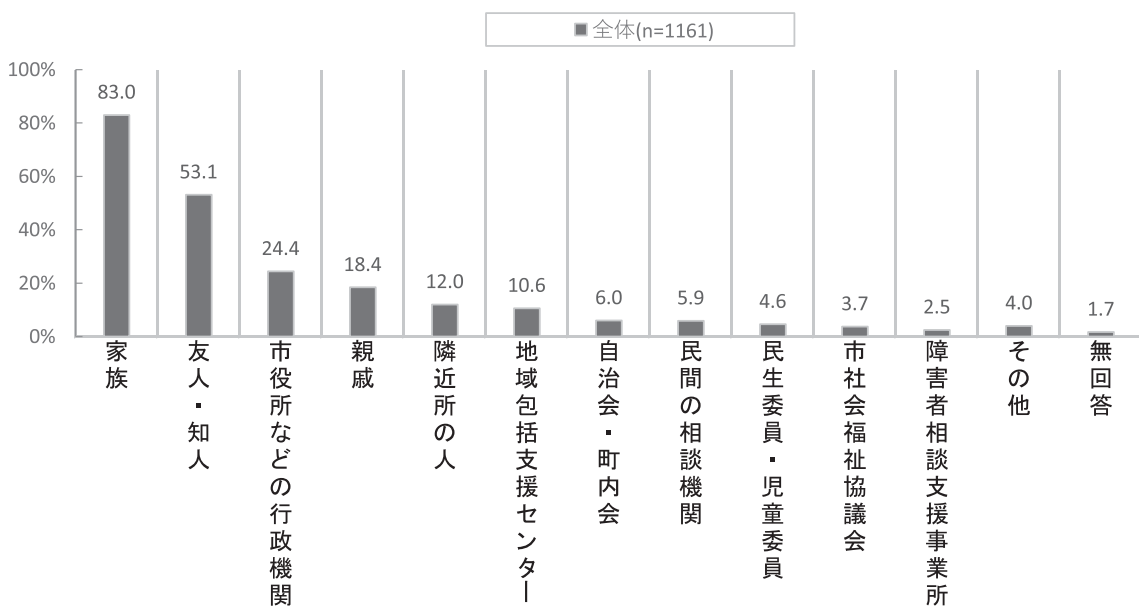
問4 日常生活で、あなたは現在、どのような困りごとや不安を感じていますか。  
あてはまるものをすべて選んでください。

全体では、「健康のこと」が37.6%で最も高く、次いで「経済的なこと」と「災害時の避難のこと」がそれぞれ28.2%、「介護のこと」が22.4%の順となっている。



問5 あなたが日常生活で困りごとや不安を感じた時、誰に相談したいですか。  
あてはまるものをすべて選んでください。

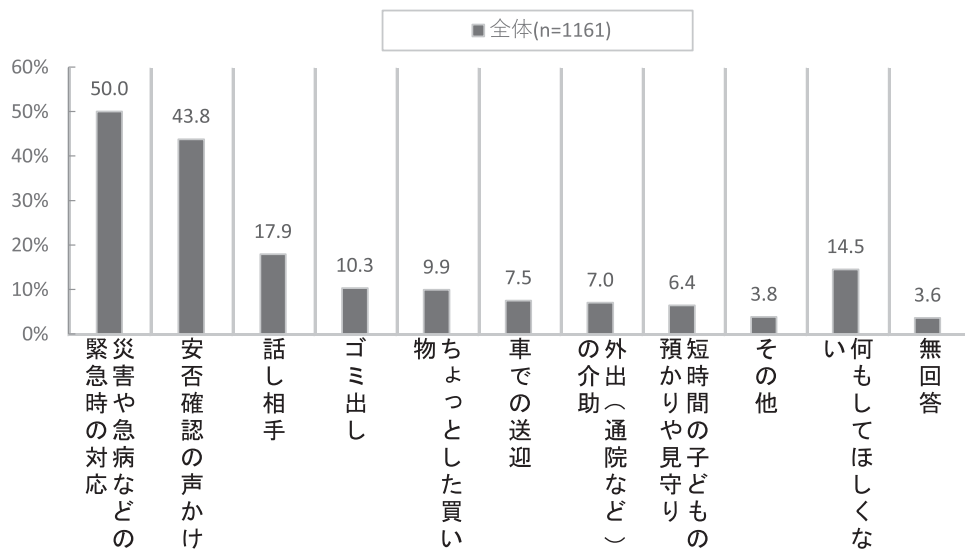
全体では、「家族」が83.0%で最も高く、次いで「友人・知人」が53.1%、「市役所などの行政機関」が24.4%の順となっている。





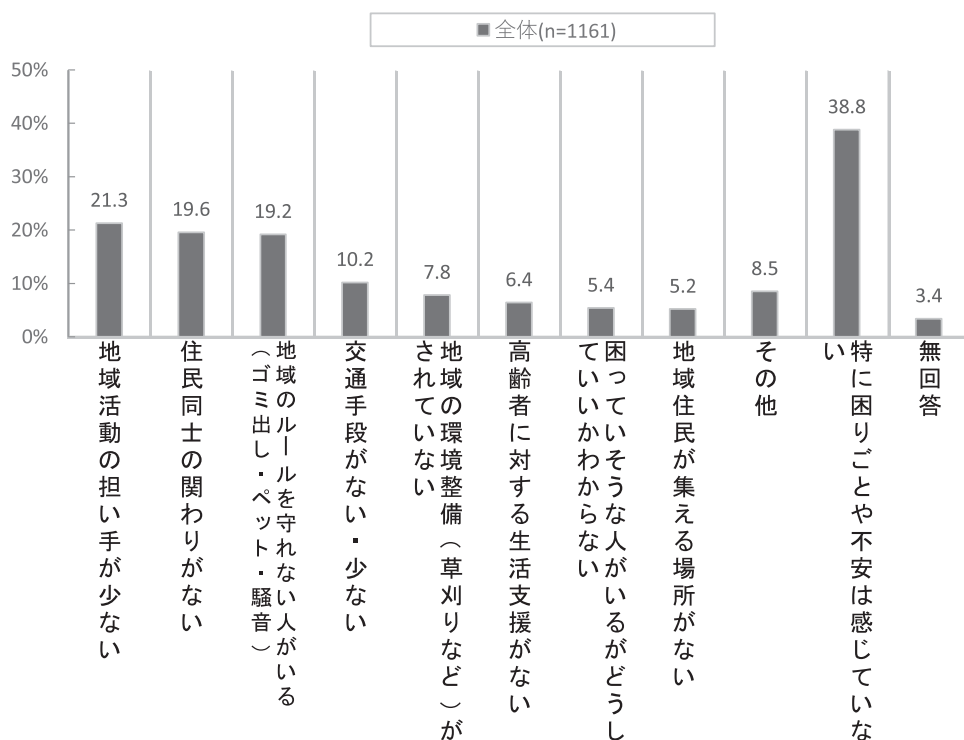
問6 あなたが日常生活で困ったとき、隣近所の人に何をしてほしいですか。  
3つまで選んでください。

全体では、「災害や急病などの緊急時の対応」が50.0%で最も高く、次いで「安否確認の声かけ」が43.8%で、この2つの項目が突出している。



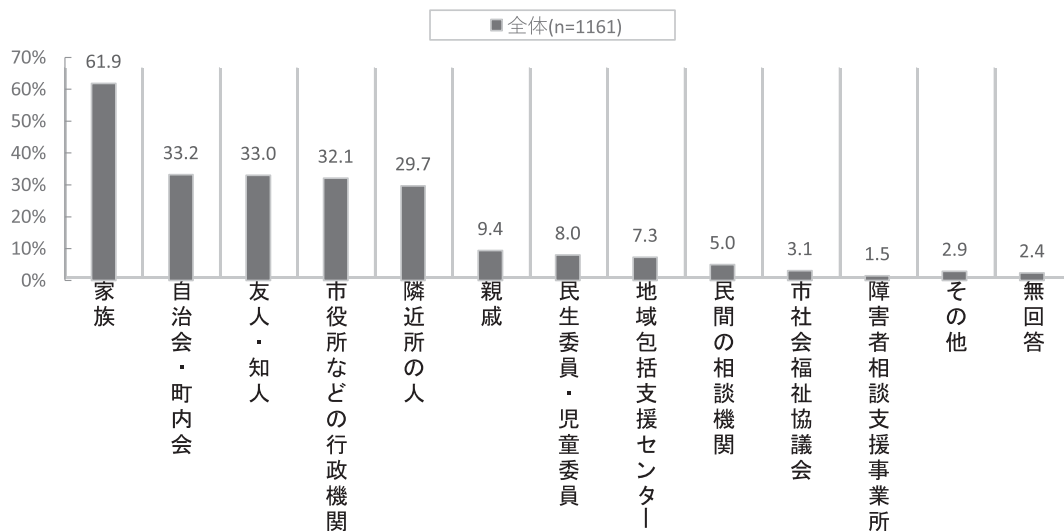
問7 現在あなたが住んでいる自治会・町内会の区域で困りごとや不安がありますか。  
あてはまるものをすべて選んでください。

全体では「地域活動の担い手が少ない」21.3%、「住民同士の関わりがない」19.6%、「地域のルールを守れない人がいる」19.2%などが高くなっている。



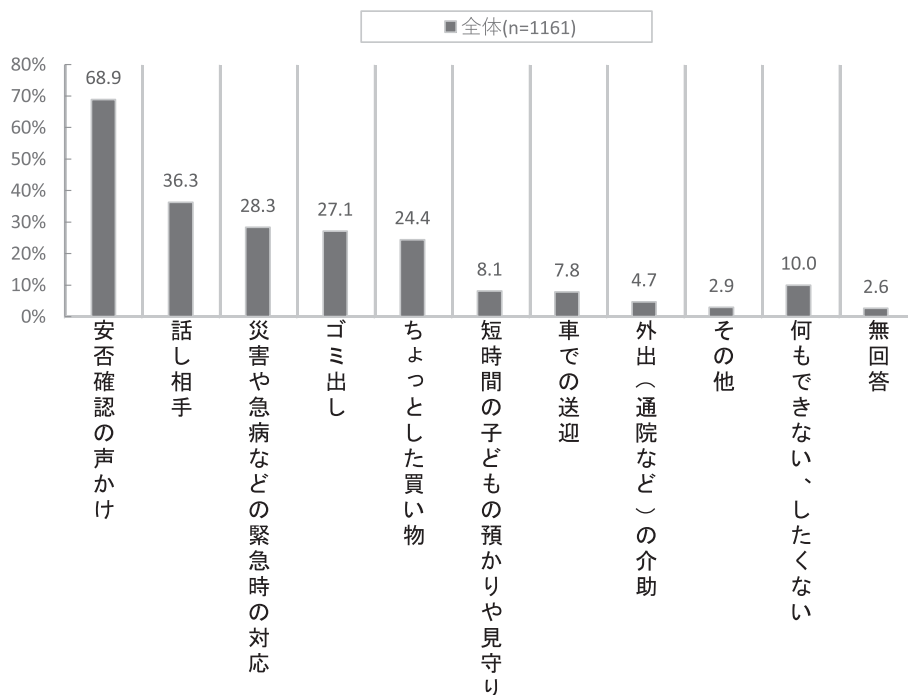
問8 現在あなたが住んでいる自治会・町内会の区域で困りごとや不安を感じた時、誰に相談したいですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全体では、「家族」が61.9%で最も高く、次いで「自治会・町内会」が33.2%、「友人・知人」33.0%、「市役所などの行政機関」32.1%、「隣近所の人」29.7%の順となっている。



問9 現在あなたが住んでいる自治会・町内会の区域で、困っている人がいたら、その人やその家族に対してあなたができることは何ですか。3つまで選んでください。

全体では、「安否確認の声かけ」が68.9%で最も高く、次いで「話し相手」が36.3%、「災害や急病などの緊急時の対応」28.3%、「ゴミ出し」27.1%の順となっている。

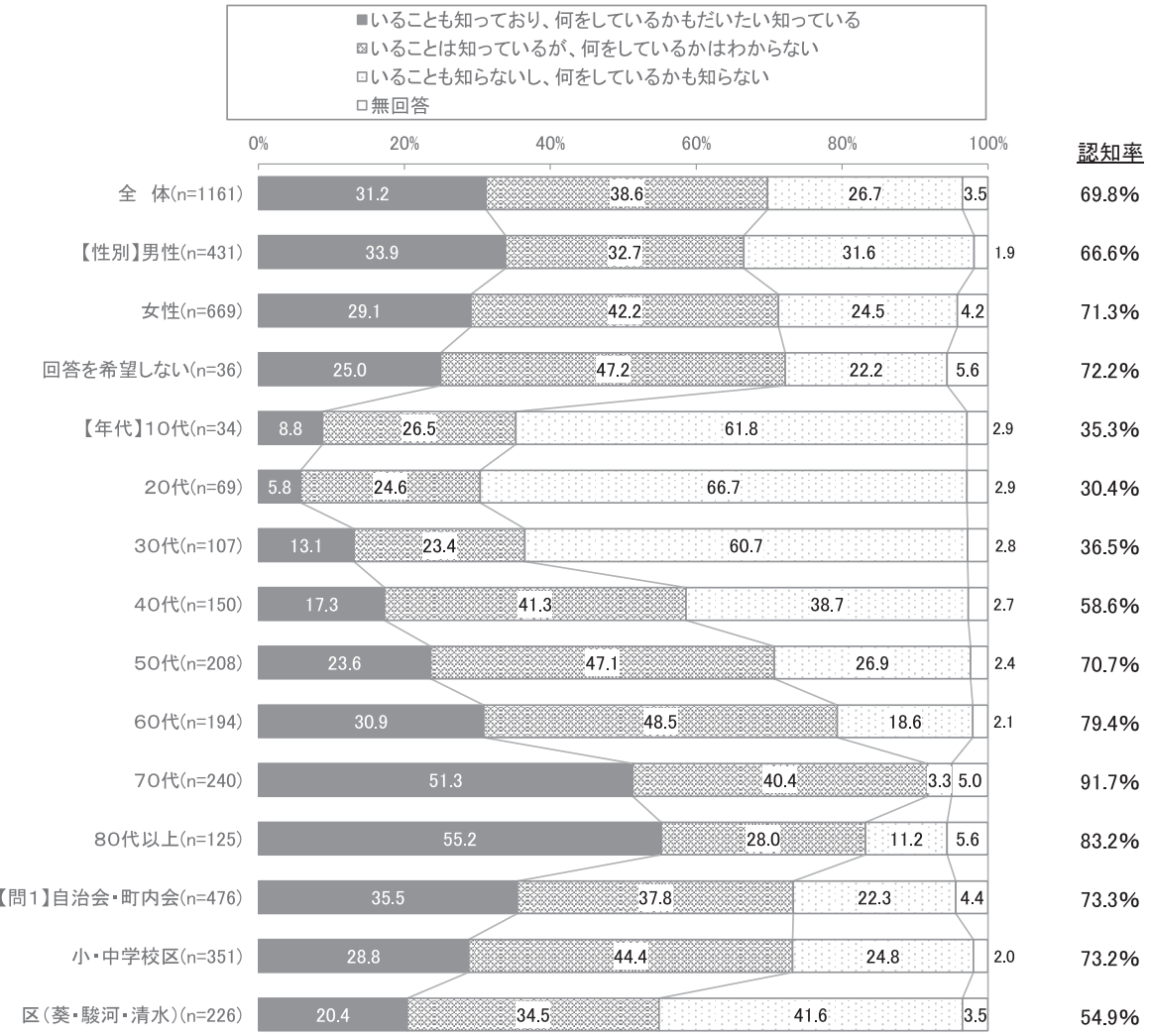


問 10 あなたの地区に民生委員・児童委員がいることはご存じですか。

全体では、「いることも知っており、何をしているかもだいたい知っている」が 31.2%、「いることは知っているが、何をしているかはわからない」が 38.6%で、民生委員・児童委員の認知率は 69.8%となっている。

性別でみると、認知率については男女間で大きな差は見られない。

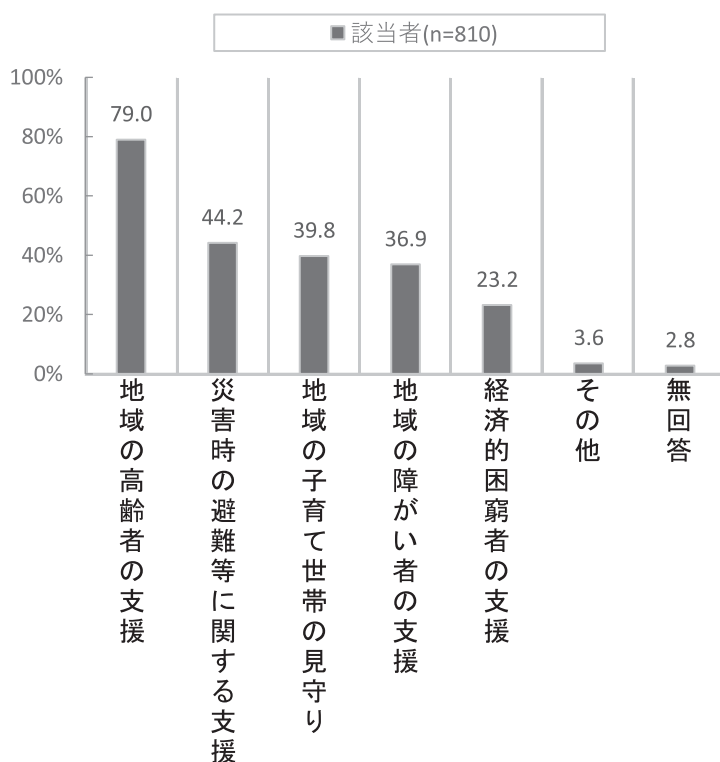
年代別でみると、10代～30代の6割が「いることも知らないし、何をしているかも知らない」と回答しており、若い年代において認知度の低さがうかがえる。



※問 10 で「1.いることも知っており、何をしているかもだいたい知っている」または「2.いることは知っているが、何をしているかはわからない」と答えた方にお聞きします。

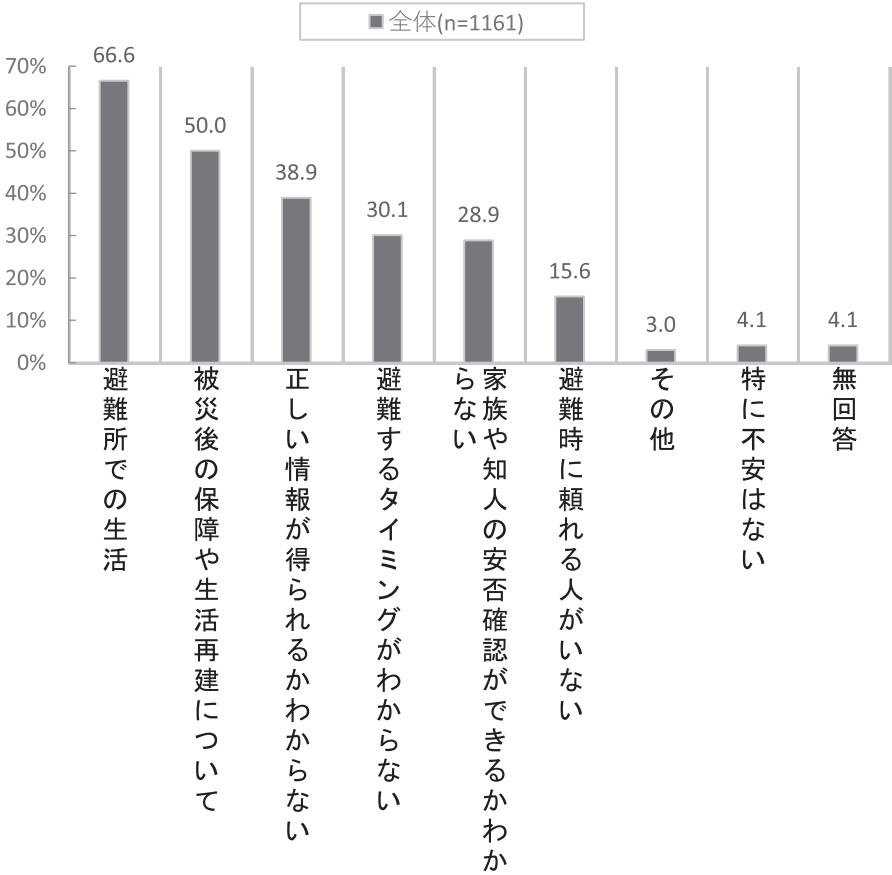
問 10-1 民生委員・児童委員にどのようなことをしてほしいですか。  
あてはまるものを3つまで選んでください。

全体では、「地域の高齢者の支援」が79.0%で最も高く、次いで「災害時の避難等に関する支援」が44.2%、「地域の子育て世帯の見守り」39.8%、「地域の障がい者の支援」36.9%の順となっている。



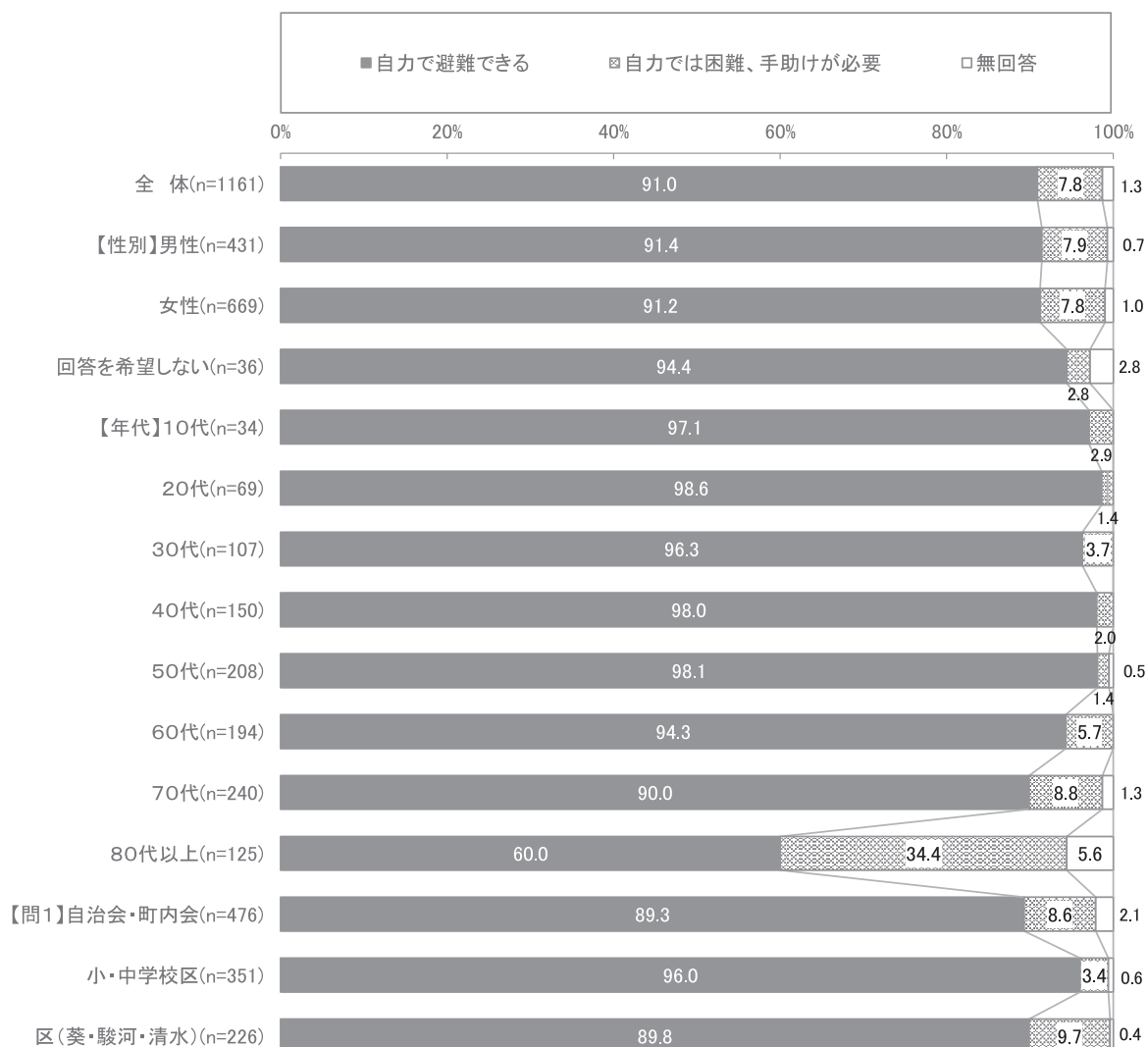
問11 災害時に不安なことは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

全体では、「避難所での生活」が66.6%で最も高く、次いで「被災後の保障や生活再建について」が50.0%、「正しい情報が得られるかわからない」が38.9%の順となっている。



問 12 災害時にあなたは自力で避難することができますか。

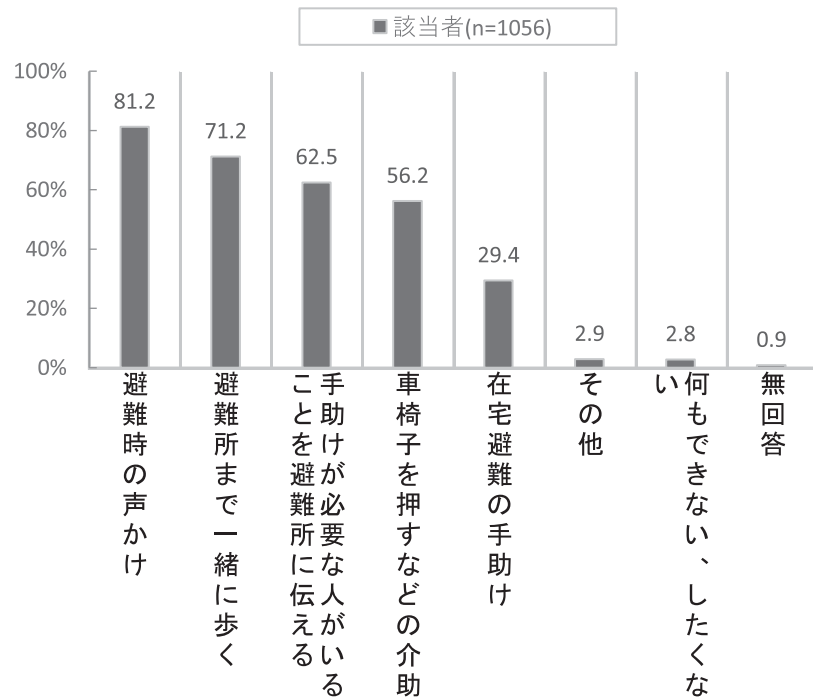
全体では、「自力で避難できる」と回答した割合が91.0%を占める。



※問12で「1.自力で避難できる」と答えた方にお聞きします。

問12-1 あなたの周りに災害時に避難するための手助けが必要な人がいたら、あなたにできる事は何ですか？あてはまるものをすべて選んでください。

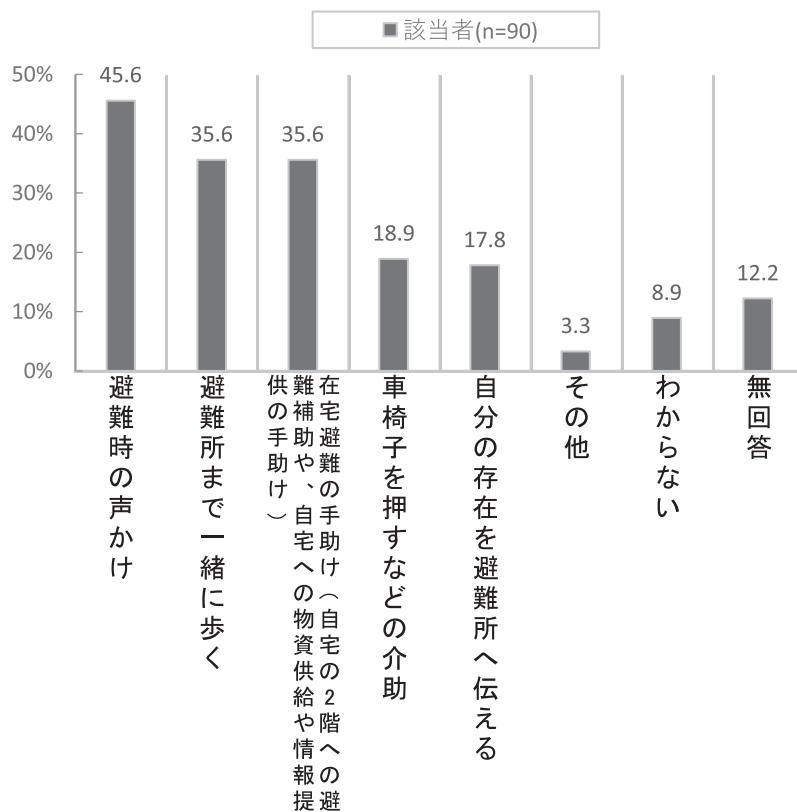
全体では、「避難時の声かけ」が81.2%で最も高く、次いで「避難所まで一緒に歩く」が71.2%、「手助けが必要な人がいることを避難所に伝える」が62.5%の順となっている。



※問 12 で「2.自力では困難、手助けが必要」と答えた方にお聞きします。

問 12-2 あなたはどのような手助けを希望しますか？あてはまるものをすべて選んでください。

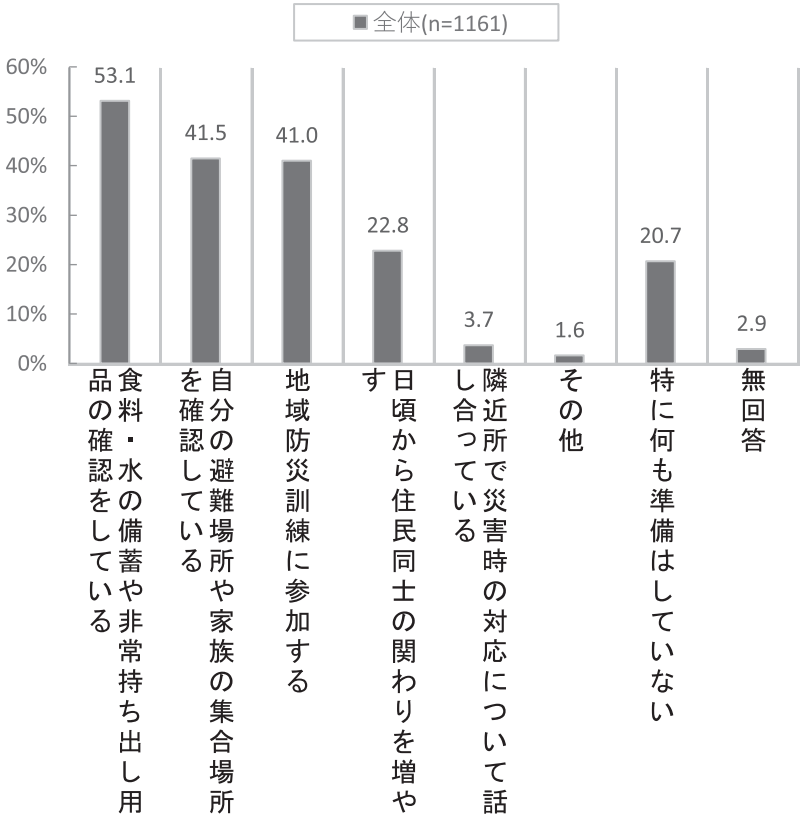
全体では、「避難時の声かけ」が45.6%で最も高く、次いで「避難所まで一緒に歩く」と「在宅避難の手助け」がそれぞれ35.6%となっている。





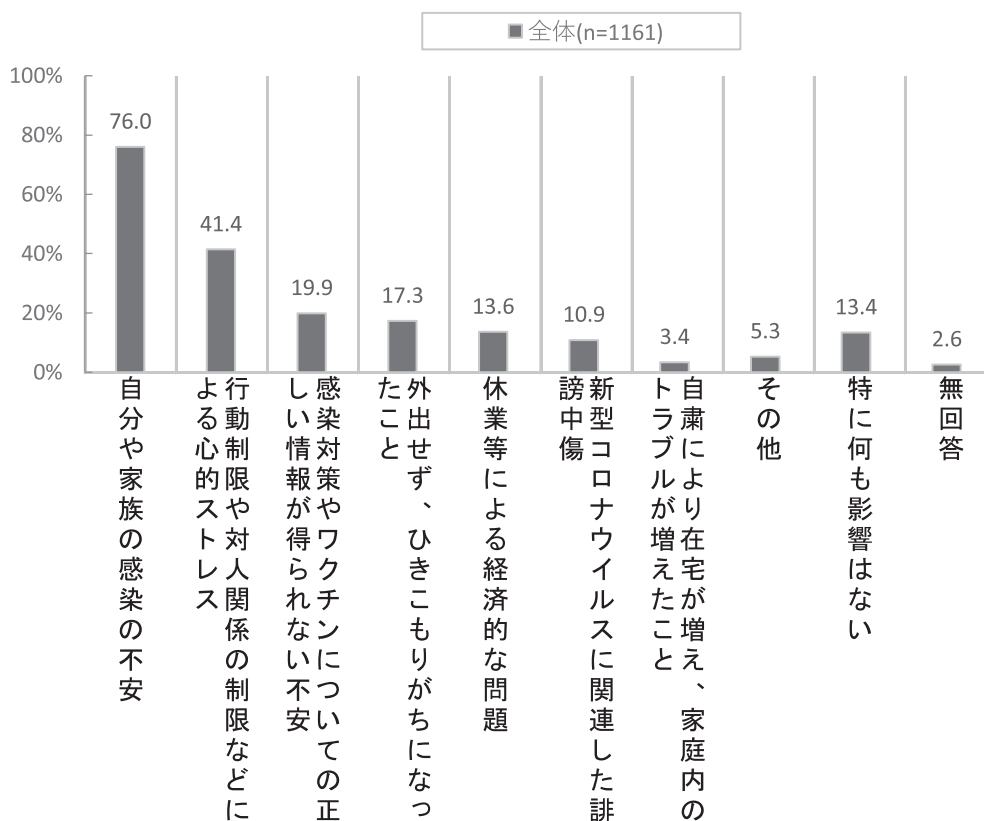
問 13 災害時に備えてどのようなことを心がけていますか。  
 あてはまるものをすべて選んでください。

全体では、「食料・水の備蓄や非常持ち出し用品の確認をしている」が53.1%で最も高く、次いで「自分の避難場所や家族の集合場所を確認している」が41.5%、「地域防災訓練に参加する」が41.0%の順となっている。



問14 新型コロナウイルスの流行により、不安なこと、影響を受けていることは何ですか。3つまで選んでください。

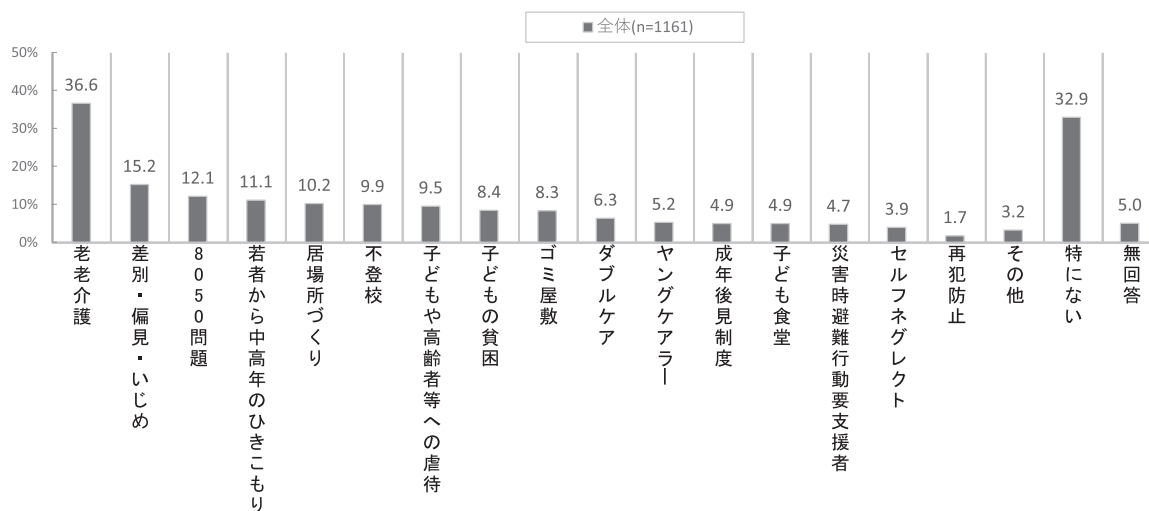
全体では、「自分や家族の感染の不安」が76.0%で最も高く、次いで「行動制限や対人関係の制限などによる心的ストレス」が41.4%となっている。



問 15 最近の地域福祉の課題の中で、あなたの身の回りでどんなことが話題になっていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

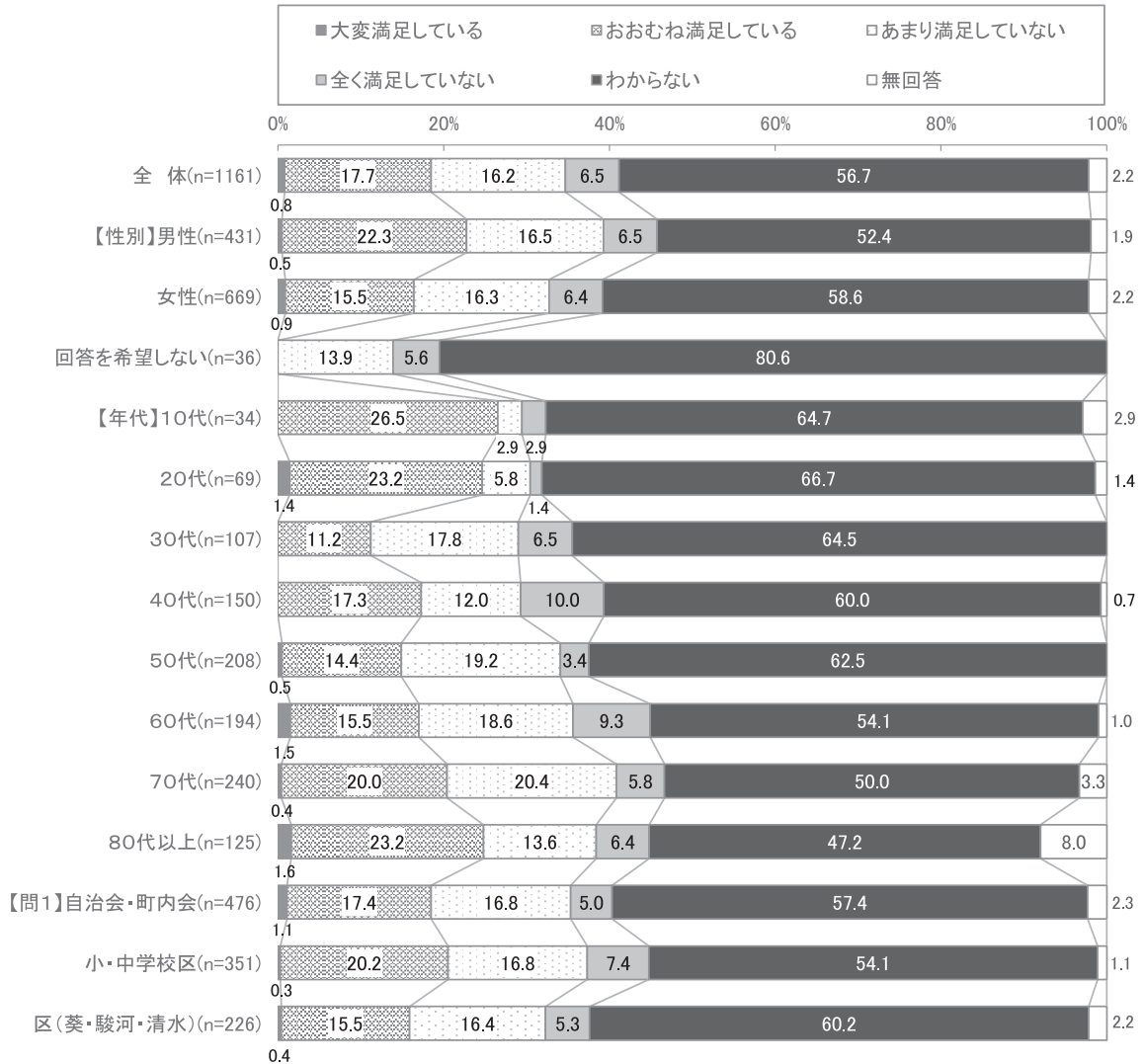
- ※1 8050問題…80代の高齢者が働いていない50代の子と同居し生活を支えている世帯の問題
- ※2 ダブルケア…親の介護と育児に同時に直面する世帯の問題
- ※3 ヤングケアラー…本来大人が担う家事や家族の世話（介護など）を日常的に行っている、18歳未満の子ども
- ※4 セルフネグレクト…生活環境や栄養状態が悪化しているのにそれを改善しようという気が本人にはなく周囲に助けを求めない状態のこと。ゴミ屋敷や孤独死の原因とも言われている。
- ※5 居場所づくり…高齢者、障がい者、子どもをはじめ地域住民の誰もが気軽に立ち寄ることができ、自由な時間を過ごすことができる場所をつくること

全体では、「老老介護」が36.6%で突出している。



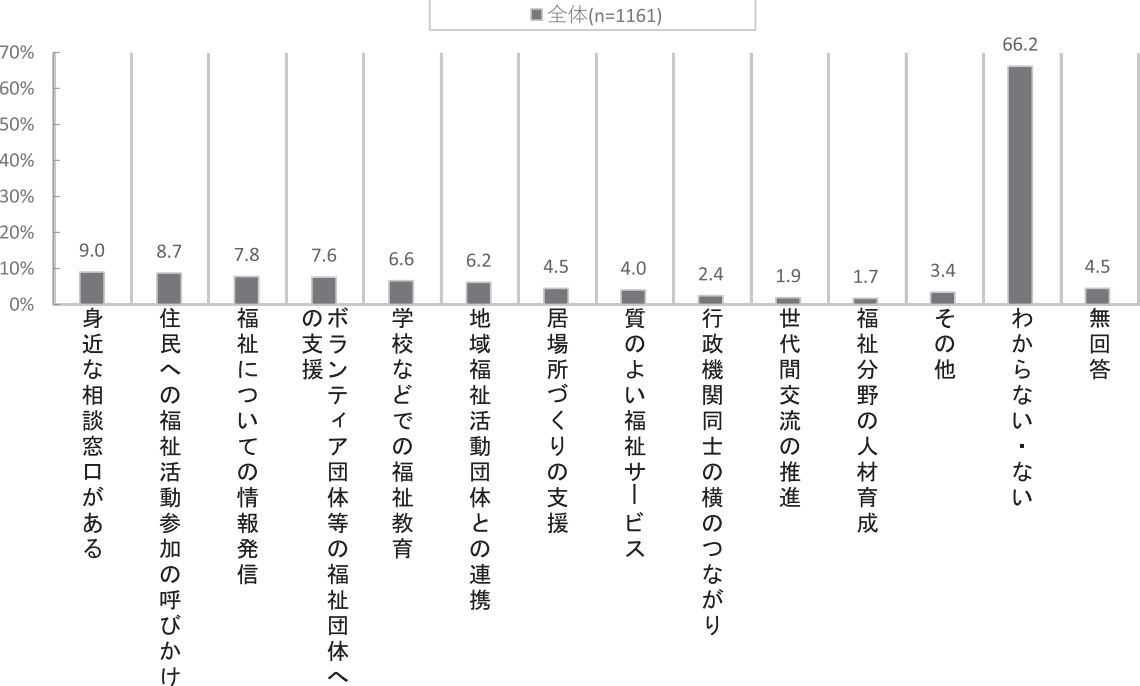
問 16 現在、静岡市で実施している地域福祉に関する取組に満足していますか。

全体では、「大変満足している」が0.8%、「おおむね満足している」が17.7%で満足している人の割合は18.5%と2割に満たない。「わからない」が56.7%を占める。



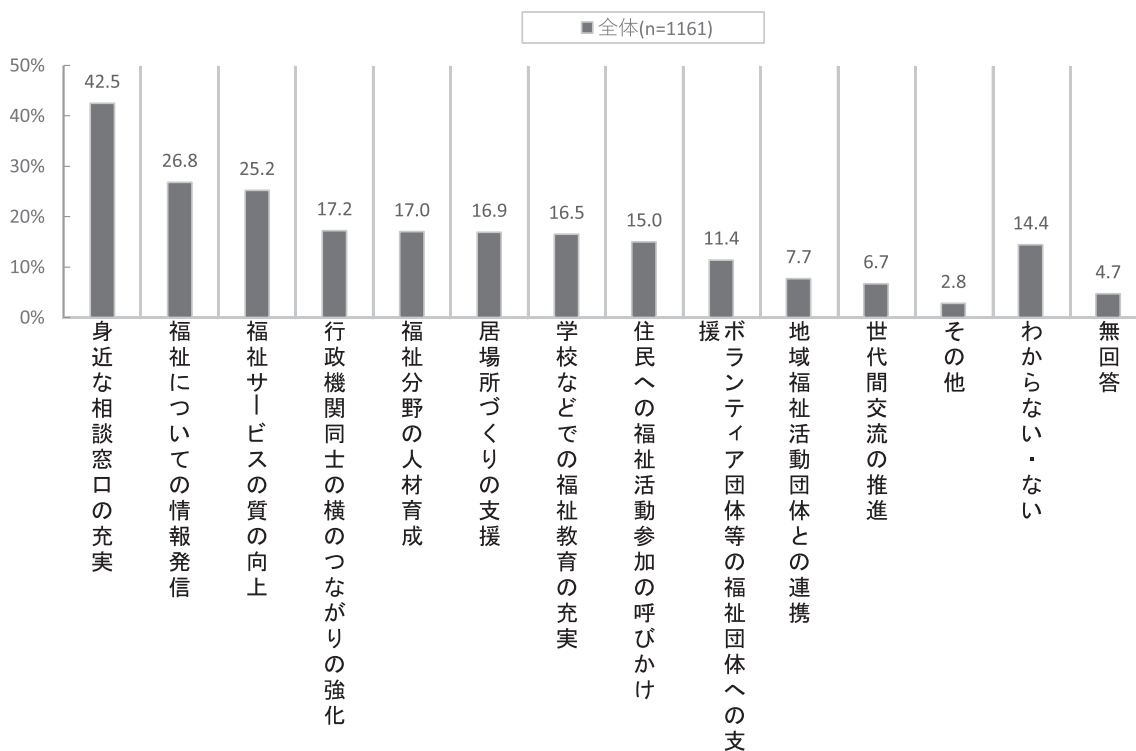
問 17 現在、静岡市で実施している地域福祉の取組の中で評価できるものはありますか。3つまで選んでください。

全体では、「わからない・ない」が66.2%にのぼり、いずれの項目も1割に満たず、静岡市における地域福祉の取組が知られていない状況がうかがえる。



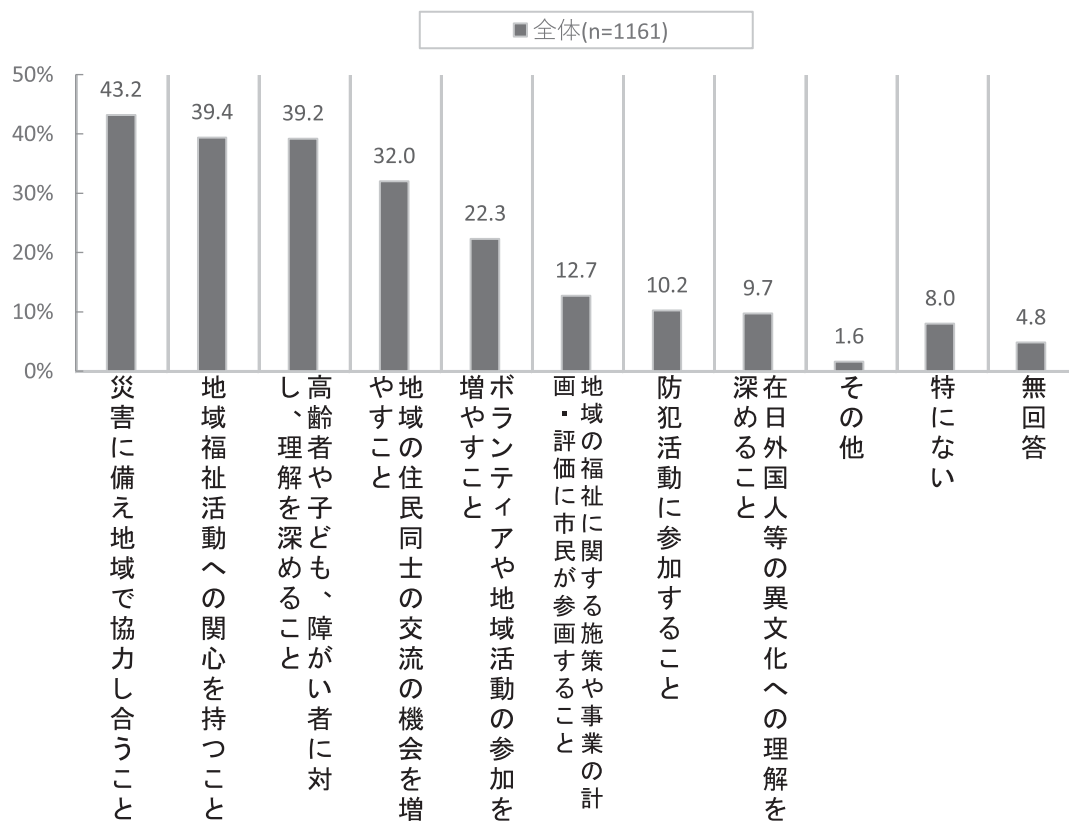
問 18 地域福祉の取組の中で、静岡市がこれから重点的に取り組むべき項目はありますか。3つまで選んでください。

全体では、「身近な相談窓口の充実」が42.5%で最も高く、次いで「福祉についての情報発信」が26.8%、「福祉サービスの質の向上」が25.2%の順となっている。



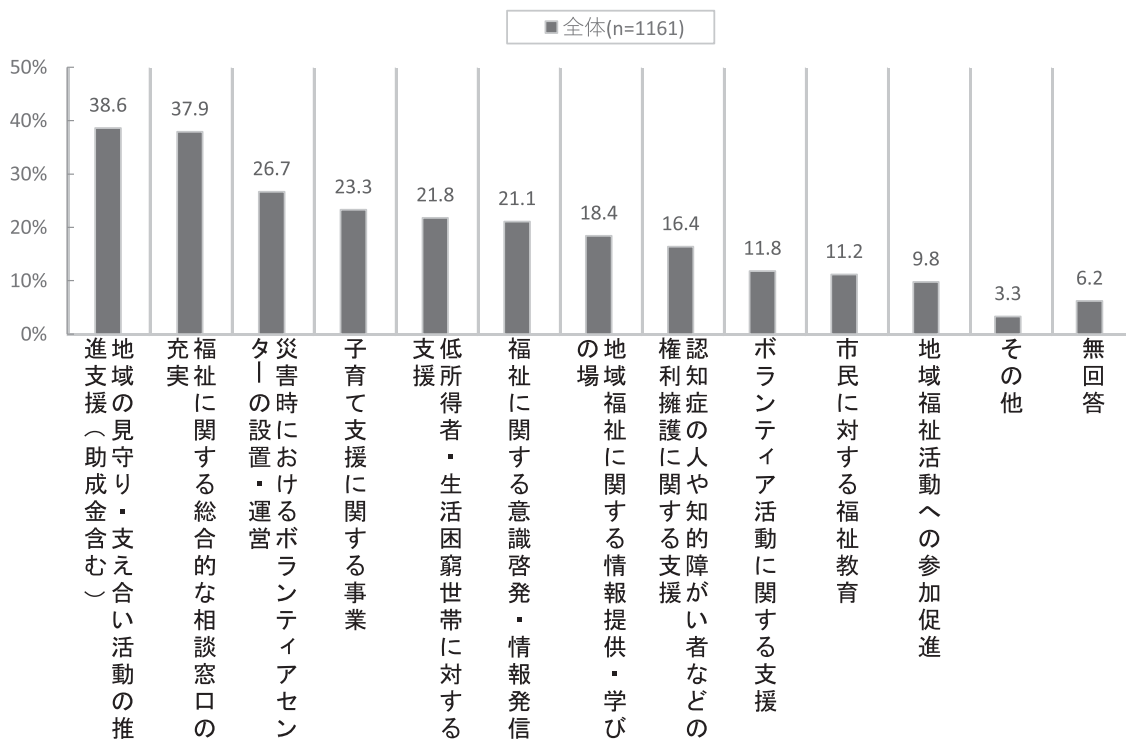
問 19 今後、地域福祉を推進するために、「市民」が特に取り組むべき項目だと思うものを3つまで選んでください。

全体では、「災害に備え地域で協力し合うこと」が43.2%で最も高く、次いで「地域福祉活動への関心を持つこと」が39.4%、「高齢者や子ども、障がい者に対し、理解を深めること」が39.2%の順となっている。



問 20 静岡市社会福祉協議会は、地域福祉の専門機関として、静岡市と連携し地域福祉活動の充実に取り組んでいます。静岡市社会福祉協議会に期待することは何ですか。3つまで選んでください。

全体では、「地域の見守り・支え合い活動の推進支援」38.6%と「福祉に関する総合的な相談窓口の充実」37.9%が高くなっている。

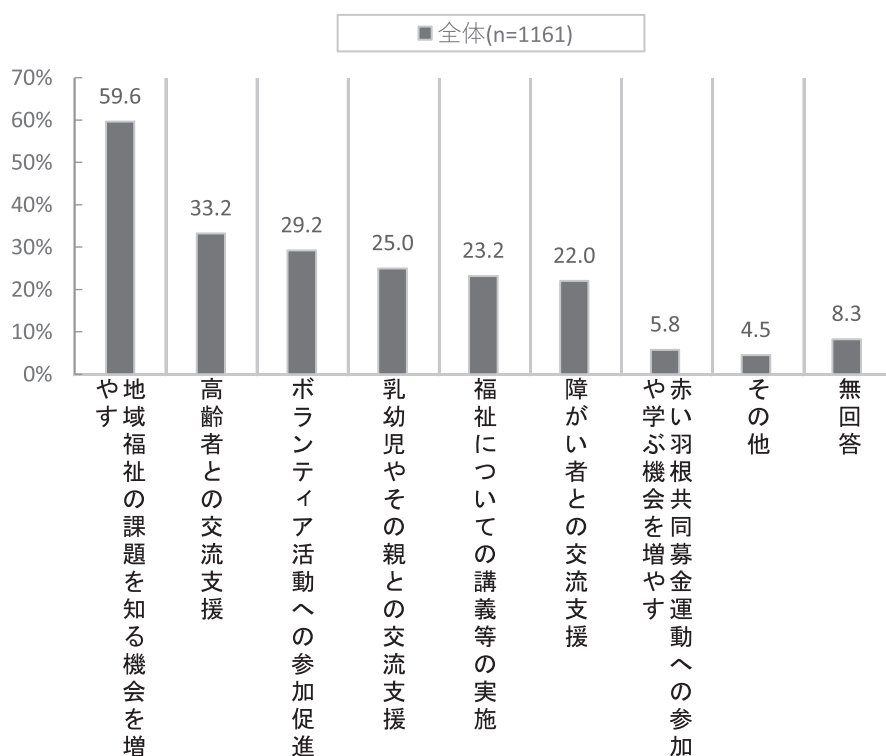




問 21 静岡市社会福祉協議会では、「共に生きる力」を育む 福祉教育（※）を推進しています。誰一人取り残さない地域社会を実現するためには、静岡市社会福祉協議会でどのような取組が必要だと思えますか。3つまで選んでください。

※ 福祉教育…自分を大切にし、他者を理解するために、子どもから高齢者まで地域社会全体で福祉の心を育み、誰一人取り残さない地域共生社会を目指すための教育。

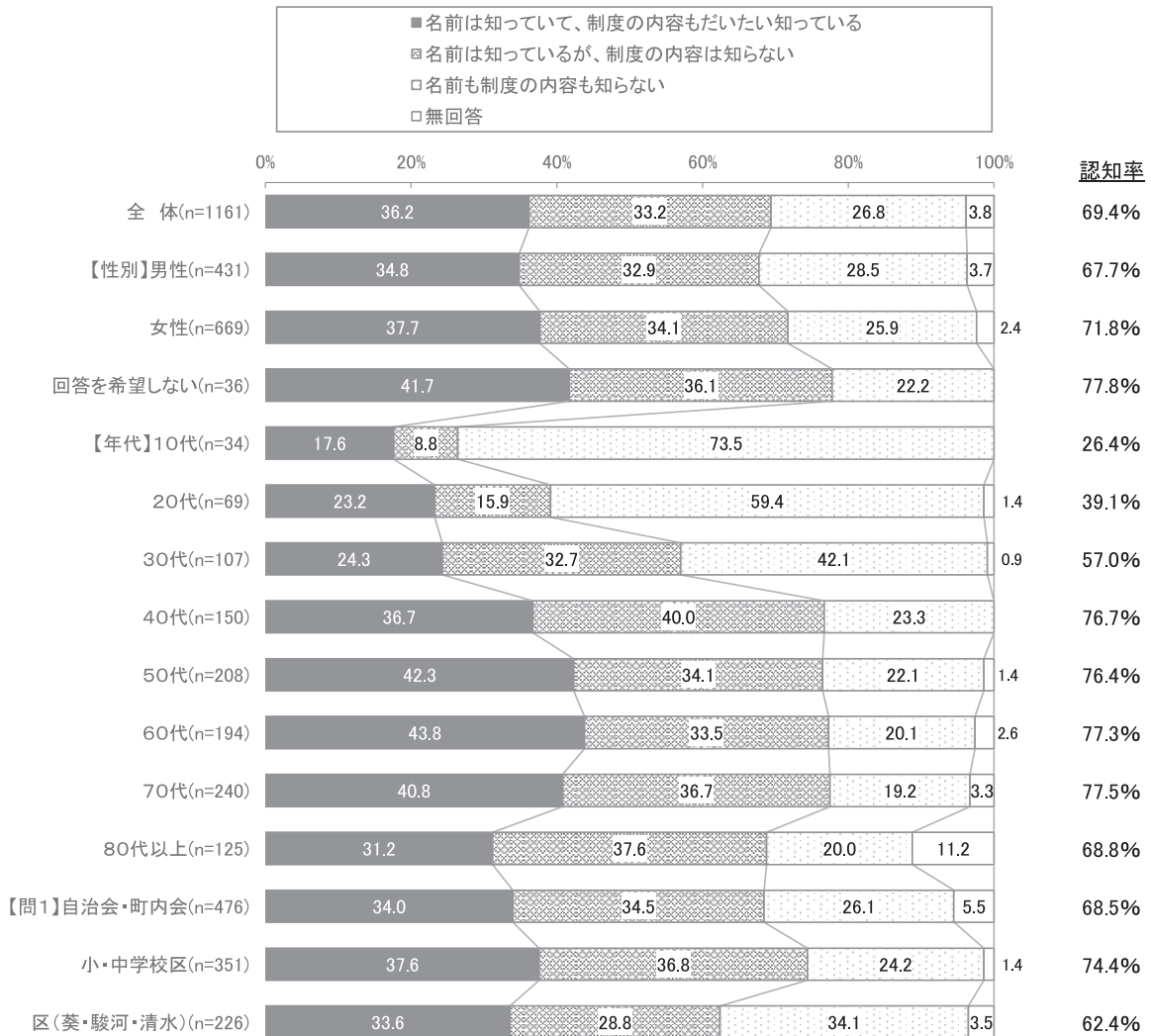
全体では、「地域福祉の課題を知る機会を増やす」が59.6%と突出している。そのほか「高齢者との交流支援」が33.2%、「ボランティア活動への参加促進」が29.2%、「乳幼児やその親との交流支援」が25.0%、「福祉についての講義等の実施」が23.2%、「障がい者との交流支援」が22.0%、「赤い羽根共同募金運動への参加」が5.8%、「その他」が4.5%、「無回答」が8.3%となっている。



問 22 静岡市では成年後見制度（※）の利用促進に取り組んでいます。  
成年後見制度についてご存じですか。

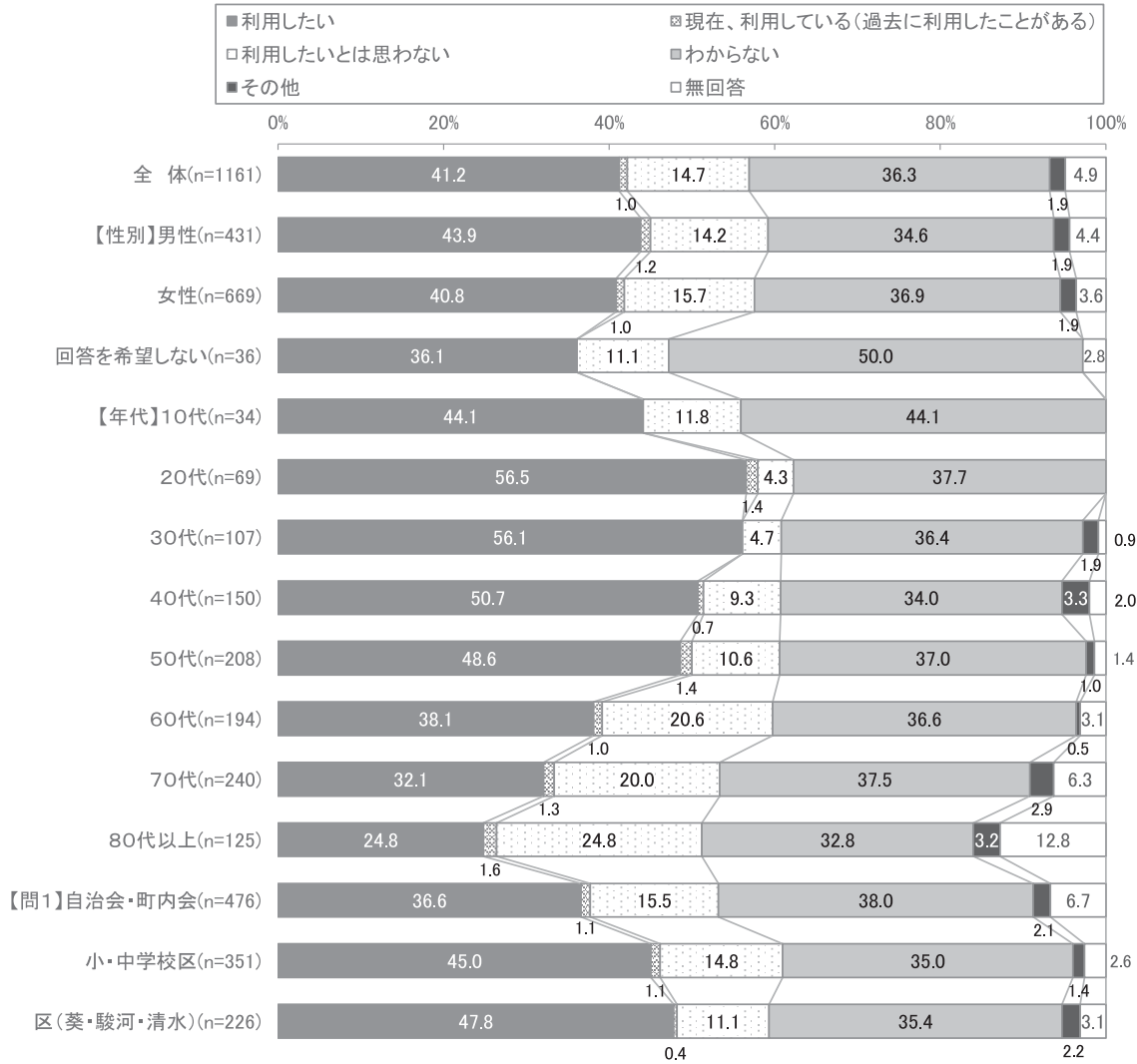
※ 成年後見制度…認知症や知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が低下した人の生活や財産管理を法的に支える制度

全体では、「名前は知っていて、制度の内容もだいたい知っている」が 36.2%、「名前は知っているが、制度の内容は知らない」が 33.2%で認知率は 69.4%となっている。



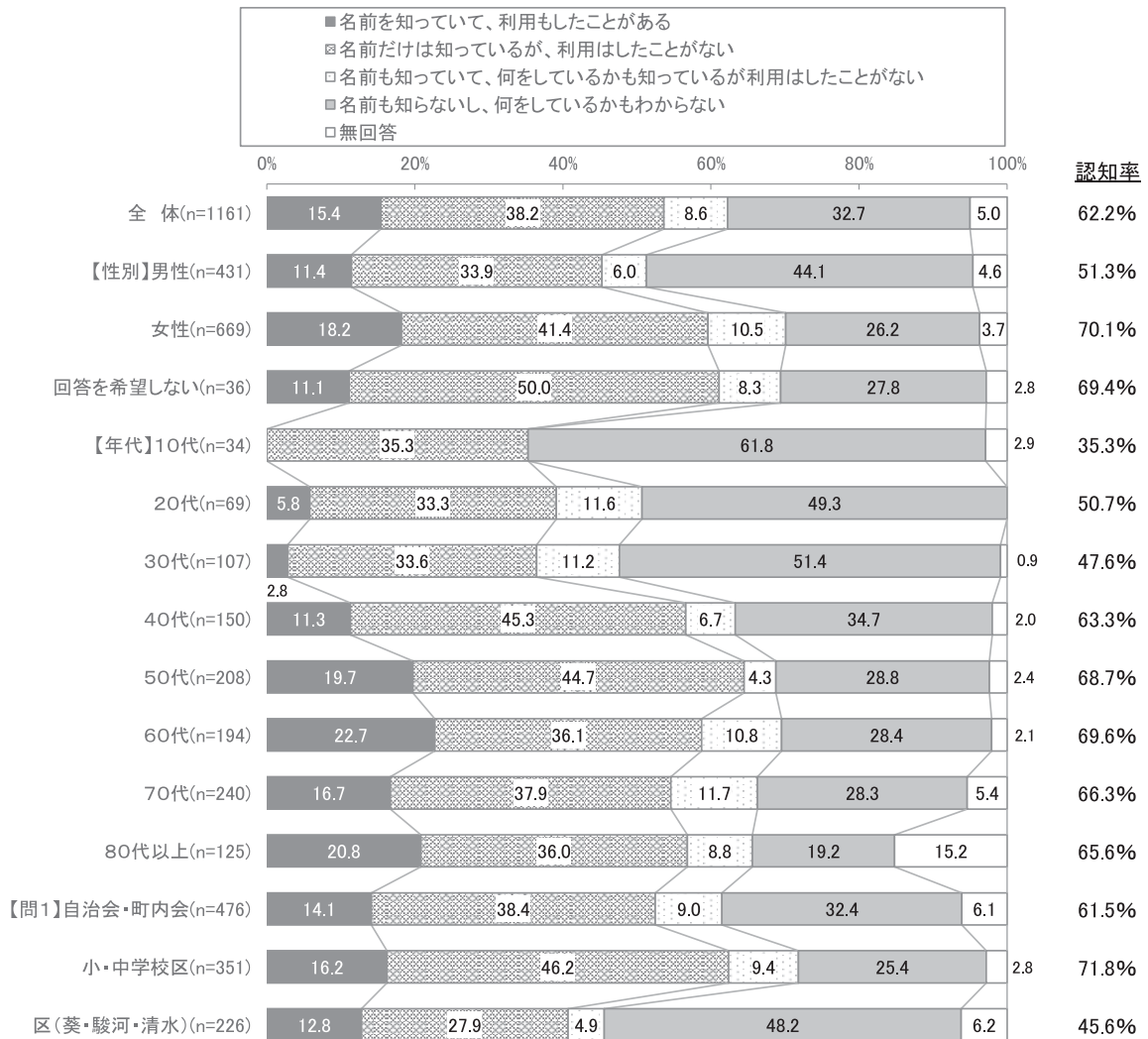
問 23 あなた自身やご家族が認知症等になり判断が十分にできなくなった時、成年後見制度を利用したいと思いませんか。

全体では、「利用したい」と回答した割合は41.2%となっている。



問 24 あなたの地域に地域包括支援センターがあることはご存じですか。

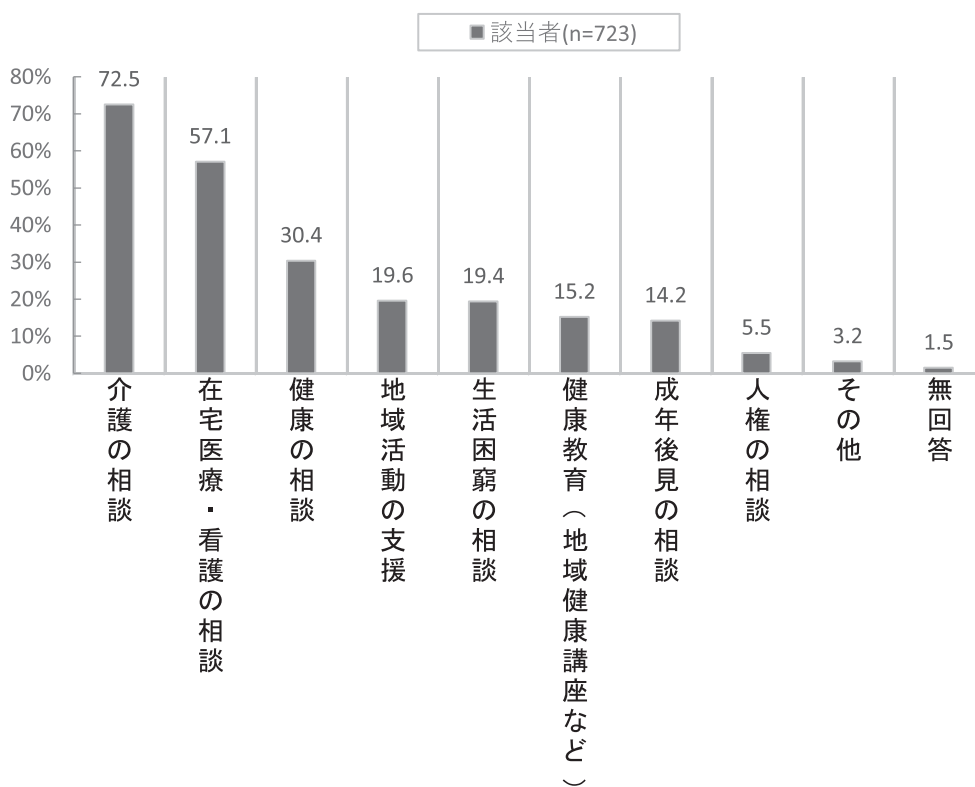
全体では、「名前を知っていて、利用もしたことがある」が 15.4%、「名前だけは知っているが、利用はしたことがない」38.2%、「名前も知っていて、何をしているかも知っているが利用はしたことがない」8.6%で、認知率は 62.2%となっている。



※問 24 で「1.名前を知っていて、利用もしたことがある」、「2.名前だけは知っているが、利用はしたことがない」または「3.名前も知っていて、何をしているかも知っているが利用はしたことがない」と答えた方にお聞きします。

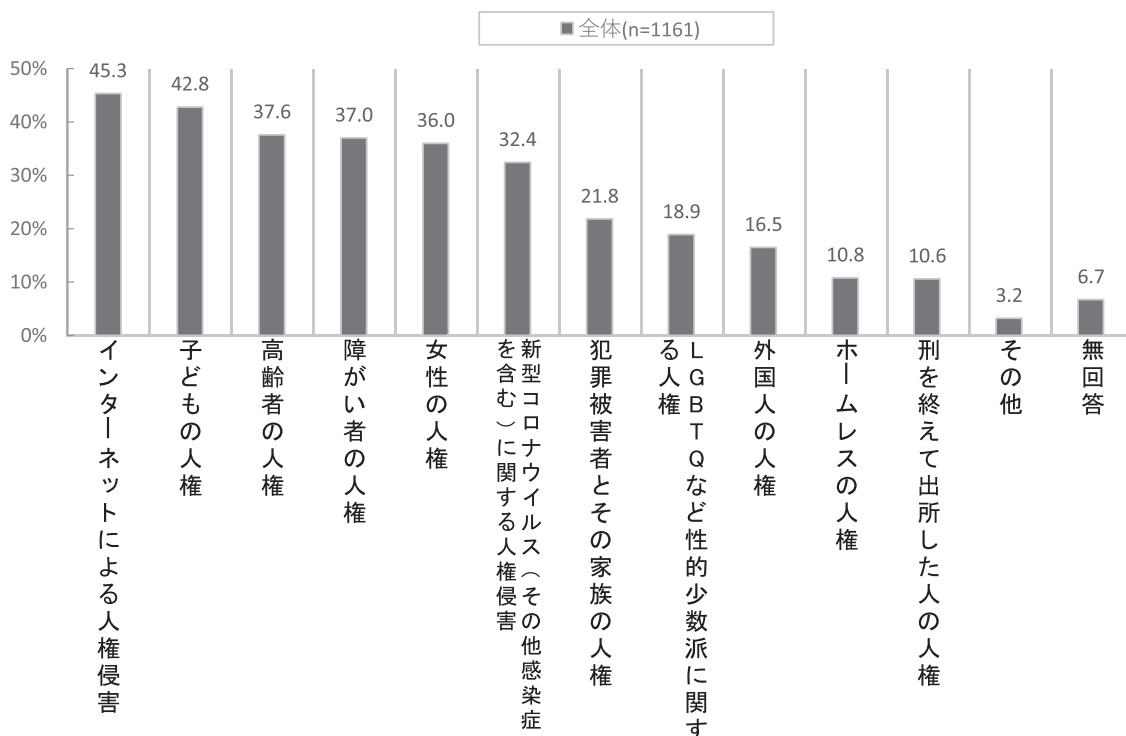
問 24-1 地域包括支援センターに期待することは何ですか。3つまで選んでください。

全体では、「介護の相談」と回答した割合が72.5%で最も高く、次いで「在宅医療・看護の相談」が57.1%、「健康の相談」が30.4%の順となっている。



問 25 人権に関する問題のうち、あなたが関心のあるものはなんですか。  
 あてはまるものをすべて選んでください。

全体では、「インターネットによる人権侵害」が45.3%で最も高く、次いで「子どもの人権」が42.8%、「高齢者の人権」37.6%、「障がい者の人権」37.0%、「女性の人権」36.0%、「新型コロナウイルスに関する人権侵害」32.4%の順となっている。



問 26 人権に関する問題をなくすためにどのようなことが大切だと思いますか。  
あてはまるものを3つまで選んでください。

全体では、「学校における教育の充実」が54.0%で最も高く、次いで「公的な支援の充実」が46.4%、「当事者の声を聞く機会を増やす」が44.0%の順となっている。

